

希望が丘 夏休み わんぱくキャンプの 実施結果の普及

<報告の概要>

主催団体、直接指導するキャンプリーダーそして参加者や保護者が、「現状と課題」を認識した上で、長期キャンプを体験し、結果として「生きる力」や「非認知能力」、「自然や環境への理解(SDGs)」等がどう変化したのかを、テーマ・目的、実施内容を時系列等で紹介し、この活動を普及する。

【テーマ】 心から心へ ～自立と協力の7日間～

【目的】 参加者自身が自分と向き合い、まわりを見つめ、チームの一員として3つの項目の目的とする。

◎自分の参加動機とわんぱくキャンプの目標をしっかり認識する。

◎そのために皆と考え方ややり方を、話し合い工夫する。

◎参加者同士協力し、目標達成を目指して粘り強く取り組む。

☆7日間の自然の中での生活を通して、「自分で考えて行動する力」と「仲間と協力して物事を解決する力」の2つの力を習得し、互いに心（非認知能力や生きる力等）を成長させる

【事業概要】 自然を楽しみながら学ぶ場を提供し、びわ湖版SDGs「マザーレイクゴールズ (MLGs)」の枠組みの中で、4項目の目標を定め、その達成のため、子どもたちが自主性や協調性を身につけ、野外活動や自然活動の各種プログラムを体験してもらう。

この7日間の体験で、参加者の「生きる力」や「非認知能力」の向上に工夫を凝らし、心身の健全な発達を促し、また環境負荷低減について少しでも理解と行動が今後できるようにする。特に心の成長である、「思いやり」「強い気持ち」「絆」等そして「感動」の主観的な指標も大切にし、事業を実施する。

○滋賀県が2021年7月1日、マザーレイクゴールズ推進委員会が掲げた「Mother Lake Goals 変えよう、あなたと私から」から事業プログラムを展開。具体的には13の項目から以下の4項目に絞る。

- | | | |
|----|-----------------|----------------------------|
| 3 | 「多様な生き物を守ろう」 | → ●身近な自然を知る、学ぶ ●間伐等、森林保全活動 |
| 4 | 「水辺も湖底も美しく」 | → ●ゴミ排出量の削減 ●マナーを守っての行動 |
| 5 | 「恵み豊かな水源の森を守ろう」 | → ●里山の保全 |
| 10 | 「地元も流域も学びの場に」 | → ●自然体験プログラム |

上記の項目を中心に、計画、実践を行う。



**Mother Lake
Goals**

変えよう、あなたと私から

【現状と課題】

①「生きる力」や「非認知能力」への、こどもたちの関心の薄さは、ここ数年のコロナ禍の弊害が大きな要因であり、対面経験の欠如やフィールドワークの体験機会の減少、ネット環境における仮想体験への偏りなどが起因し、また学校現場でこういった機会が減少している。

特に小学生の成長における「体験」の繰り返しより

- 相手の気持ちを読み取る力 ●自分の気持ちを表現する力
- 自分を好きだと思ふ気持ち ●他者への思いやりの心 など

難しい状況であることが現状であり、解決していく課題と考える。

②自然や環境への理解不足も、状況は左記と同様である。SDGsは、学校で学ぶ機会は増えているが理論や卓上での議論が多く、実体験での行動は難しく、提示されたことは取り組むが、自分を取り巻く環境で自ら考え、継続して行動する機会は少ないことが現状であり、この方向性を大切にすることが課題である。

組 織 図

滋賀県希望が丘文化公園

公園長	山中 秀記
副公園長	田附 宏之
キャンプディレクター兼 プログラムディレクター	豊田 管理監
マネジメントディレクター	岡村 主幹兼係長
マネジメントスタッフ	玉石 公園主事
	田村 公園主事
	吉岡 公園主事
	八木 公園主事
	片岡 公園主事

希望が丘キャンプリーダー

<令和6年度は87名が登録し、活動をしています>

キャンプリーダー名簿 (わんぱくキャンプ)

No.	氏 名	リーダーネーム	役 職
1	木村 燦徳	まにまに	○チーフ
2	北川 さくら	ちゃーてえ	○サブチーフ
3	西村 一夏	ぱおぱお	○フード
4	久郷 夏未	くるとん	4サイトSS長
5	小谷 翼	カリカリ	4サイトSS
6	島村 柚衣	みんと	4サイトSS
7	池田 彰利	カシャボ	3B:SS長
8	伊藤 小姫	すやあ	3B:SS
9	窪田 幸来	ころも	3B:SS
10	中江 昂太	バリとん	1班GL
11	高杉 陽	あれら	1班GL
12	藤井 菜々美	にひる	1班SS
13	此川 亜花莉	すふれ	2班GL
14	平野 光祐	ばたばた	2班GL
15	小林 風羽	サリユー	2班SS
16	高井 春紀	るぱー	3班GL
17	内糸 ことの	レーネ	3班GL
18	渡邊 みなみ	かけごはん	3班SS
19	川瀬 瑞葵	ずーちい	4班GL
20	北田 雄大	でんぶん	4班GL
21	高井 茉那	コットン	4班SS
22	臼井 悠人	とんこつ	5班GL
23	野尻 雅姫	おちょ	5班GL
24	高居 実来	らぶ	5班SS
25	友保 あかね	ネモ	6班GL
26	安井 翔一郎	ぶりめる	6班GL
27	鎌田 百葉	うに	6班SS



「わんぱくキャンプ」のチーフサブチーフが説明
場所：東雨天活動場

『令和6年度 文部科学省委託「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」
教育的効果の高い長期自然体験活動の構築・普及事業』 希望が丘夏休みわんぱくキャンプ

◎日帰り、6泊7日を過ごす上での目的とねらい

7日間のプログラムで、「MLGs」(※)の4項目を通して非認知能力である「主体性」「協調性」「目標に向かって頑張る忍耐力」を身に付ける。

※「MLGs」…13項目ある中から4項目「③多様な生き物を守ろう」「④水辺も湖底も美しく」「⑤恵み豊かな水源の森を守ろう」「⑩地元も流域も学びの場に」に絞る。

◎プログラムと結果考察

日 帰 り 7 月 28 日 (日)	「アイスブレイク」 「他己紹介」は、班の仲間を知るとともに、仲間でコミュニケーションをしっかりとること、「言うこと一緒、やること逆」では、シンプルで少し難しいゲームを全員で協力することで、仲を深めることを目的に行った。
	<p>わんぱくタイム</p> <p>6泊7日の日程で使用する旗作りを行い、指定は班の数字を書くことのみ、参加者を中心に自分達だけの旗を作成した。 [MLGs]：使用した布は、使わなくなったシーツを使用していることを子供たちに知ってもらうために、3R <Reduce (リデュース)、Reuse (リユース)、Recycle (リサイクル)の3つのRの総称>クイズを行い再利用 (リユース) していることを伝えた。作成した旗は場所の目印で使用したり、秘密基地作りの際に一緒に写真を撮ったり、食材調達戦の際に使用した。</p> 
<p><間伐体験></p> <p>旗の持ち手の木の伐採を行い、間伐の目的やその意味を知る機会を設けた。</p>	
1 日 目	<p>K Y T</p> <p>危険なところを探して答え合わせをするだけでなく、危険なところを探し、班のメンバーと何が危険いか、どのようにしたらよいかを話し合い発表を行った。このようにした目的は、出会ってまだ間もない仲間たちと交流する場を設けて自分の意見を伝え、みんなで1、2つの意見にまとめることで自主性と協調性を身に付けることを目的として行った。</p>
	<p><名札作り></p> <p>[MLGs]：名札作りのはじめに間伐とは何か、使用する木は、間伐材を使用したものであることを説明した。子供たちは説明した内容を各自の「丘ノート」にメモをした。</p>
2 日 目	<p>小ハイキング</p>  <p>5日目の登山に向けて自信をつけるために2日目にハイキングを行った。地図を見ながら参加者中心に小ハイキング行い、「歩けた」という成功体験で自信をつけることでした。班のメンバーと話し合い、進むことで参加者の協調性を養うことを目的に行った。</p>
	<p>[MLGs]：3日目の琵琶湖のプログラムの活動に向けて、道中で琵琶湖クイズを出題した。琵琶湖について、遊びながら学ぶことに加え、オーパル（活動場所：大津市）での活動を意識づけた。 また、自然の中を歩くことで、聴覚（川の流れる音、木の葉が揺れる音、鳥・虫の鳴き声など）、視覚（壮大な山々の景色、沢山の植物、様々な生き物など）、嗅覚（森の中の澄んだ匂い、草花の匂いなど）など様々な面から「自然」を感じとることができた。</p> 

2 日目	ロープワーク	<p>みんなと協力して「アスレチック」作る過程で、自分たちが考えたものを相談して仕上げるため、「協調性」「主体性」を身につけることができた。</p> <p>【MLGs】：はしご作りの木材も間伐材を使用し、間伐材は身近なものであることを知る機会を作った。また、間伐で伐採した木材はこのように利用することで、自然を守ることに繋がるということをお子に説明した。</p>	
	キャンプファイアー	<p>ゲームを3種類行い、落としとして1曲歌った。ゲームを行いながら班のメンバーだけではなく他の班のメンバーと関わりを持つことができ、さらにみんなでゲームをクリアするために協力する点から「協調性」を養うことができた。『まほう使いから風船をゲットするために退屈を解消させる』という課題に、ゲームを楽しみながら頑張る取り組みが「目標に向かって頑張る忍耐力」につながった。</p> <p>【MLGs】：ローインパクトとして、地面に直接火が触れないように木の上に薪を組んで、土に住んでいる微生物への負担を減らした。このことをエールマスターが子供たちに伝えた。</p>	
3 日目	琵琶湖のプログラム	<p>全体の進行の中で、ゲームを行いながら班のメンバーだけでなく他の班と関わりが持て、さらに大きなグループでゲームをクリアするために協力した。この協力の元、ドラゴンボートをする事で「協調性」を養った。</p> <p>ドラゴンボート、カヌー体験では目標地点に向かってみんなで力を合わせ、「目標に向かって頑張る忍耐力」も経験となった。</p> <p>『カヌー』 「主体性」 ●自分で考えて行動・自らの挑戦 「社会性」 ●マナーとルール 「自己観察力」 ●自分の体調や気持ちを客観視</p> <p>『ドラゴンボート』 「協調性」 ●声を掛け合う 「団結」 「調整力」 ●みんなと調整しながら行う。</p> <p>『ヨシ紙作り』 「理解力」、「考察力」、「表現力」 ●創作これらのプログラム体験にて非認知能力を身に付けることができた。</p> <p>※上記体験で、非認知能力の「自分で考えて行動する力」「仲間と協力する力」「人と自然の繋がりを理解する力」身に付けることができる。(オーパルの資料より)</p> <p>【MLGs】：ヨシ紙作り、ドラゴンボート、カヌー体験を通して、学びながら環境のことにについて学べた。学んだことは「丘ノート」にまとめた。また、行きのバスではオーパルについての説明と、琵琶湖・滋賀についてのクイズを出して事前に学習した。</p>	  

4 日目	秘密基地作り	<p>間伐材を使用し、参加者同士で話し合い・協力しながら作ってもらい、協調性と主体性を養うことを目的に行った。秘密基地作りに必要な結び方を新しく2つ学び、参加者主体で行った。土台が完成したら、2日目に行ったロープワークで学んだ結び方を自在に結んだ。</p>	
	食材調達戦		<p>全ゲーム、班のメンバーと協力できる内容にした。みんなとゲットする食材を話し合い、何を、どうやって作るかを班のメンバーで考えることで、協調性を養うことができた。リーダーも一緒に考えるが、参加者メインに考えていくことで、主体性を養うことができた。</p> <p>【MLGs】：〇×ゲームで山や森に生息している動物の問題を出題した。</p>
<p><チャレンジクッキング>も「食材調達戦」と同様</p>			
5 日目	登山	<p>登山前の聞こえる音、登山中に聞える音、下山後に聞こえる音に注目して、時間帯によって聞こえる音の違いを実感した。仲間と協力して登山を行うことで協調性を養うことができる。山頂を目指した登山で、目標に向かって頑張る忍耐強さを身に付けることができた。</p> <p>【MLGs】：これまでの日程の中で、機会がなかった早朝の山を聴覚（川の流れる音、木の葉が揺れる音、鳥・虫の鳴き声など）、視覚（壮大な山々の景色、沢山の植物、様々な生き物など）、嗅覚（森の中の澄んだ匂い、草花の匂いなど）など様々な面から「自然」を知ることができた。普段体験できない早朝登山は貴重な体験が学びに繋がった。</p>	
	野外調理		<p>鮎の塩焼きは、生きていた鮎を捕まえるところから調理し、ビア缶チキンでは普段見ることが少ない丸鶏を解体して命のありがたさを学んだ。鮎のぬめりをとる際に水を流し続けるのはMLGsでと解釈しないが、桶に水を用意しそこでぬめりとりを行った。</p>
6 日目	LNP	<p>これまでの6日間の調理で、ダッチオーブン、鉄板、鍋、フライパンを使う料理を考え、LNP（ラストナイトパーティの略）までに参加者ができることを増やし、班で協力して作れるようにした。班の仲間と協力してリーダーの手を借りずに調理することで協調性、主体性を身に付けることができた。</p> <p>6日間の成果を自分たちで発揮して、自分たちの成長を実感することを目的に行った。</p>	
7 日目	サイト掃除	<p>7日間生活したサイトの掃除を行った。「来た時よりも美しく」を目標に行い、綺麗にすることができた。各サイトでゴミ拾いを行い、自分たちの手できれいにした。</p>	 

<補足>

- グループタイム（GT）の際に「パスポート（しおり）」の絵日記を書き、1日の振り返りを行った。内容は「絵日記・頑張りたいこと・楽しかったこと」で、毎晩グループリーダー（GL）がしおりをチェックする際に写真を撮り、参加者の変化が分かるようにした
- 毎朝「みんなの製作物」を掲揚台にあげた。毎朝上がる旗を見て、自分たちはこれだけの風船をゲットすることができたという自信、達成感を得た。

◎「MLGs」の観点

- ラストナイトパーティ（LNP）の時に「できるだけ捨てる部分は少なくなるように切ろうね」など、「MLGs」のことを自分たちで考えられるように日頃の調理で「MLGs」を意識づけた。
- 小さく細かい「MLGs」（水の出しっぱなしをしない、食材の捨てる部分をできるだけ減らすなど）の声掛けは、キャンプリーダー事前研修会でリーダー間でも共有することを徹底し、本番では各班のGLの声かけを中心に行った。
- 「丘ノート」にGLやF3（チーフ・サブチーフ・フードリーダー）が話した「MLGs」の内容を子供がメモするようにした。
- 毎食「いただきます」、「ごちそうさま」を言葉にすることで生き物の「命」をいただいているという、自然の恵みを感じることができるようにし、ひいては生態系を守ることができるとにも言及した。
- 調理ではみんなで協力して作った経験の積み重ねがきっかけになり、食品ロスの削減に繋がった。
- ハイキングや登山、琵琶湖などの自然の中での活動中のリーダーの声掛けにより、参加者が、自然の中での生き物の恩恵を受けていることに触れ、接するものを大切に扱う気持ちを向上させた。
- 6泊7日のプログラムでは、各班の旗の持ち手・ロープワークで使用する木・秘密基地で使用する木・名札で使用する木など、様々なところで「間伐材」を使用して、その背景を学んだ。「間伐」は、自然破壊ではなく、森に光が入るようになって、生態系の豊かさにつながり、高木を中心に木々が成長することができ、中低木や草本層の植物も在来種をメインに種を継続させるなど、森が豊かになっていくことをGLが要所で参加者に伝えた。
- 植物も生き物であるということをリーダーが要所で声掛けをすることにより、植物も「命」がある生き物だということを自覚させて、植物の生態を守ることを伝えた。
- 小ハイキングや登山を通して森の植物を知ってもらうことで、多様な植物を守ることの大切さを伝えた。
- オーパル（琵琶湖のプログラム実践場所）での体験を通して、琵琶湖は県民のみならず近畿の水瓶として大切なことを知ってもらった。
- キャンプのルールの中で、ゴミの「分別」をすることによって、分別を習慣づけ、キャンプ終了後も参加者自身が意識して行動をすることで全体的な湖底保護に繋がると考える。
- 「森」の危険な理由、使い道などを学んだ →自然で遊ぶのが楽しい →森を守りたいと思うようになる。

◎IKRでの調査項目

以下の「力」を向上させられるように、プログラムを組んだ。

<自主性>

- ・自分の意見を言うことができる
- ・自分で考えて動くことができる
- ・やりたいことをやりたいといえる

<協調性>

- ・他の人を思いやって行動することはできる
- ・人の話を最後まで聞ける
- ・困った子がいたら助ける
- ・みんなの意見をきける
- ・誰とでも話すことはできる

- 誰とでも仲良くできる
- 自分の仕事は最後までやりきる

<目標に向かって頑張る力>

- 最後まで頑張ることができる
- 前向きに物事を考えられる



－ 最終日のちくさくコール －

(リーダーからのコメント)

わんぱくキャンプが教育的効果に対して有用であると、もっとも感じたのは4日目です。班に属しておらず関わりが少ない私のもとに子どもが来て、「帰りたくない」と伝えてくれました。この4日目には、秘密基地作りや食材調達戦があり、リーダーと子どもで話すのではなく、子ども同士でコミュニケーションをとる場面が多くありました。今までより、各班の団結力が上がっていることが目に見えて分かりました。このような経験から、子どもは長期キャンプだからこそ得ることができる協調性や自主性が育まれ、私たちリーダーはどのような環境を提供すれば成長に繋がるのか学ぶことができました。
(文責：すやあくサポートスタッフ>)

わんぱくキャンプでは6泊7日という長い期間、親元からはなれ、自然や非日常を体験することが出来たり、子どもたちで協力し合わなければいけないことがたくさんあったりと自分たちでやりきる力、どうすれば上手くいくかを考える力、仲間と協力、信頼関係を築く力等いろいろな力を手に入れることが出来ると思います。

また、今日の日本ではスマートフォンやタブレットといった電子通信機器、ディスプレイ製品が普及し、現代の子どももそれらに触れてきて育ってきたと思います。わんぱくキャンプでは一週間それらから離れることで、ゲーム、スマホ依存を防いだり、また生きていく上で大切な「生きる力」、学習能力、コミュニケーション能力育てることが出来ると思います。
(文責：まにまに<チーフ>)



早朝三上山登山

アンケート＜参加者&保護者同内容＞

事前

事後

参加者氏名 _____

※以下について該当するところに「○」をつけてください

学年 (小学校) : 4年生 5年生 6年生 / 性別: 男 女

アンケートの考え方

- 下の質問 (しつもん) をよく読み、「保護者からみた参加者である子ども」にあてはまるかどうか、「とてもよくあてはまる」から「まったくあてはまらない」までの6段階 (だんかい) で教えてください。
- 現在、もっともあてはまると思うところに、例 (れい) のように○印をつけてください。
- 考えすぎると答えられなくなることがあります。あまり考えすぎずに教えてください。

アンケートの結果 (けっか) と、学校の成績 (せいせき) やキャンプの指導 (しどう) はまったく関係 (かんけい) ありません。

- ひとりひとりのことを調べるのではなく、キャンプに参加 (さんか) した子どもたち全体のことを調べています。
- ひとりひとりの結果 (けっか) を発表したり、他人に言ったりすることはありません。

とてもよくあてはまる / まったくあてはまらない

↓

↓

		6	5	4	3	2	1
例	人との約束が守れる			○			
1	いやなことは、いやとはっきり言える						
2	人のために何かをしてあげるのが好きだ						
3	先を見通して、自分で計画が立てられる						
4	暑さや寒さに、まけない						
5	だれにでも話しかけることができる						
6	花や風景などの美しいものに、感動できる						
7	多くの人に好かれている						
8	人の話をきちんと聞くことができる						
9	自分のことが大好きである						
10	ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える						
11	自分からすすんで何でもやる						
12	いやがらずに、よく働く						
13	早寝早起きである						
14	自分かってな、わがまを言わない						
15	小さな失敗をおそれない						
16	人の心の痛みがわかる						
17	自分で問題点や課題を見つけることができる						
18	とても痛いケガをしても、がまんできる						
19	失敗しても、立ち直るのがはやい						
20	季節の変化を感じるができる						

とてもよくあてはまる / まったくあてはまらない

↓

↓

		6	5	4	3	2	1
21	だれとでも仲よくできる						
22	その場にふさわしい行動ができる						
23	だれにでも、あいさつができる						
24	洗濯機がなくても、手で洗濯できる						
25	前むきに、物事を考えられる						
26	自分に割り当てられた仕事はしっかりとやる						
27	からだを動かしても、疲れにくい						
28	お金やモノのむだ使いをしない						
		6	5	4	3	2	1
1	琵琶湖で遊ぶことが好き						
2	ごみを分別している						
3	森の木を切った後どこで使うか知っている						
4	水があることで自分たちの暮らしが豊かになると思う						
5	自然について学ぶことが好き						
6	使える資源は再利用しようと思う						
7	生き物をいじめない						
8	森の中で危険な場所を知っている						
9	滋賀の飲み水はどこから来ているかを知っている						
10	琵琶湖の魅力を知っている						
11	自然に囲まれた場所で遊ぶことが好き						
12	森にある植物をしっている						
13	間伐とは何か知っている						
14	嫌いなものも食べる						
15	琵琶湖の生き物を知っている						
16	自然から学べることはたくさんあると思う						
17	リサイクルする資源を知っている						
18	いただきます、ごちそうさまを欠かさず言う						
19	身近な自然を守りたいと思う						
20	洗い物をするときに洗剤の量を少なくする						
21	雨は生き物にとって大事だと思う						
22	キャンプをするのが好き						
23	食材を切るときに捨てる部分を少なくする						
24	生きている植物をちぎらない						
25	琵琶湖での遊び方を知っている						
26	何かを洗うとき水をだしっぱなしにしない						
27	ヨシで作られた楽器を使ったことがある						
28	木材を使って出来ているものもたくさん知っている						

アンケートはこれでおわりです。ありがとうございました。

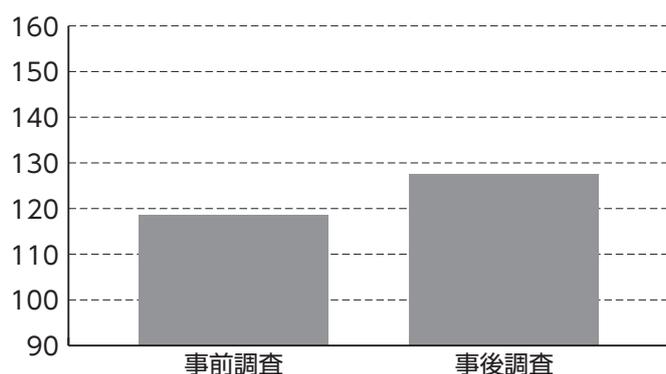
『令和6年度 文部科学省委託「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」
教育的効果の高い長期自然体験活動の構築・普及事業』 希望が丘夏休みわんぱくキャンプ

■対象：参加数 59名 ■回収数：親55人 子54人（回収率 91.5%：子）
2024/7/28 & 9/24締切 まとめ集計 2024/10/24

分析方法：対応するデータの t 検定

「生きる力」の変容：親へのアンケート結果

(得点範囲：28～168点)

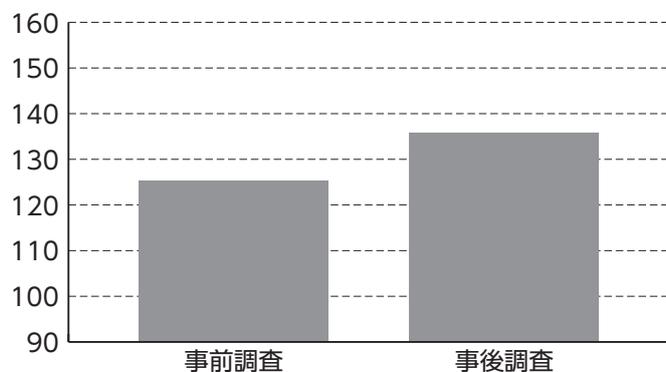


← 事前調査：118.58
← 事後調査：127.42
事前から事後にかけて8.8ポイント上昇
その向上に優位差がみられる

左の図は「生きる力」の平均値の推移
t 検定優位確率（両側）0.0000022

「生きる力」の変容：子どもへのアンケート結果

(得点範囲：28～168点)



← 事前調査：125.19
← 事後調査：135.81
事前から事後にかけて10.6ポイント上昇
その向上に優位差がみられる

左の図は「生きる力」の平均値の推移
t 検定優位確率（両側）0.000011

それぞれの分野別に関しても全てで平均値が向上し、優位差がみられた。

親へのアンケート

「心理的社会能力」	4.57ポイント上昇	優位確率0.0000258
「徳育的能力」	1.27ポイント上昇	優位確率0.0128
「身体的能力」	3.00ポイント上昇	優位確率0.0000012

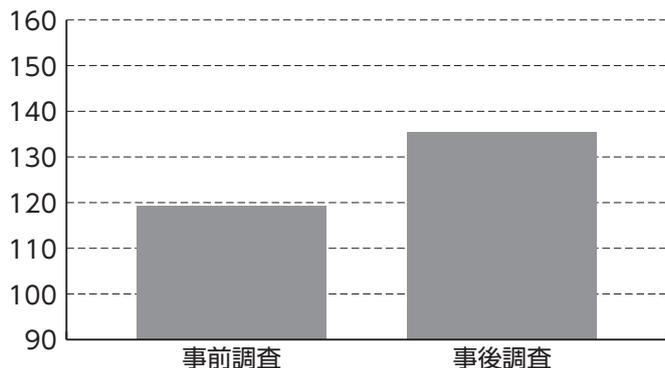
子どもへのアンケート

「心理的社会能力」	(得点範囲：14～84点)	5.11ポイント上昇	優位確率0.000186
「徳育的能力」	(得点範囲：8～48点)	2.57ポイント上昇	優位確率0.000528
「身体的能力」	(得点範囲：6～36点)	2.94ポイント上昇	優位確率0.00000598

※注：t 検定の両側優位確率が0.05より小さい場合優位差があると判断する

「MLGs力」の変容：親へのアンケート結果

(得点範囲：28～168点)

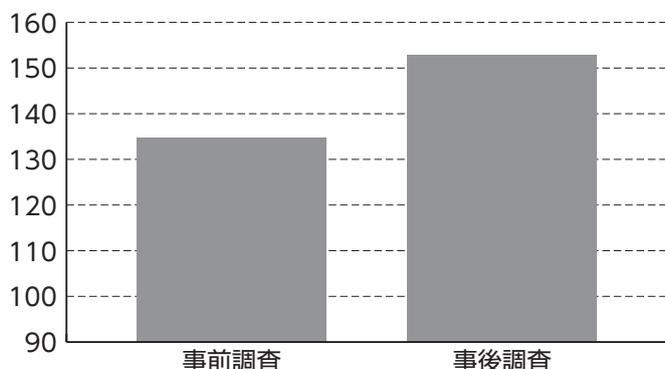


← 事前調査：119.36
 ← 事後調査：135.38
 事前から事後にかけて16.0ポイント上昇
 その向上に優位差がみられる

左の図は「MLGs力」の平均値の推移
 t検定優位確率 0.0000000012

「MLGs力」の変容：子どもへのアンケート結果

(得点範囲：28～168点)



← 事前調査：134.74
 ← 事後調査：152.92
 事前から事後にかけて18.2ポイント上昇
 その向上に優位差がみられる

左の図は「MLGs力」の平均値の推移
 t検定優位確率 0.000000000000052

それぞれの分野別に関しても全てで平均値が向上し、優位差がみられた。
 それぞれの得点範囲は7～42点である

親へのアンケート

「多様な生き物を守ろうに関する力」	3.69ポイント上昇	優位確率0.00000080
「水辺も湖底も美しくに関する力」	3.63ポイント上昇	優位確率0.000019
「恵み豊かな水源の森を守ろうに関する力」	4.27ポイント上昇	優位確率0.000000015
「地元も流域も学びの場に関する力」	4.42ポイント上昇	優位確率0.00000000817

子どもへのアンケート

「多様な生き物を守ろうに関する力」	4.10ポイント上昇	優位確率0.000000018
「水辺も湖底も美しくに関する力」	3.68ポイント上昇	優位確率0.000000020
「恵み豊かな水源の森を守ろうに関する力」	3.40ポイント上昇	優位確率0.000000017
「地元も流域も学びの場に関する力」	7.01ポイント上昇	優位確率0.000000000018

希望が丘夏休みわんぱくキャンプ「生きる力」〔MLGs〕の変容：親へのアンケート結果 (事前) (事後)

公益財団法人滋賀県希望が丘文化公園

	月 日	人 数
事前調査	2024/7/28	55
事後調査	2024/9/24	55

〔令和6年度 文部科学省委託「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」
教育的効果の高い長期自然体験活動の構築・普及事業〕希望が丘夏休みわんぱくキャンプ
分析方法：対応するデータのt検定 <参加者へのアンケート結果>
〔IKR〕の変容 & 〔MLGs力〕の変容

性 別	学 年			計
	4	5	6	
男 子	2	11	10	23(41.8%)
女 子	6	10	16	32(58.2%)
計	8(14.5%)	21(38.2%)	26(47.3%)	55

N=55

能 力	事前調査		事後調査		t 値	p
	平 均	標準偏差	平 均	標準偏差		
IKR	118.58	17.10	127.42	19.36	-7.324	***
心理的社会的能力	58.45	8.95	63.02	10.02	-5.98	***
非依存 積極性 明朗性 交友・協調 現実肯定 視野・判断 適応行動	9.04	1.61	9.76	1.73	-2.931	**
	8.47	1.76	9.62	1.82	-4.362	***
	9.62	1.59	10.00	1.71	-1.924	†
	10.05	1.50	10.47	1.39	-2.159	*
	8.36	1.90	9.62	1.92	-4.373	***
	7.95	1.97	9.51	2.07	-5.832	***
	8.49	1.84	9.67	1.56	-5.256	***
徳 育 的 能 力	36.95	6.09	38.22	5.94	-6.076	***
自己規制 自然への関心 まじめ勤勉 思いやり	7.87	2.00	9.53	1.64	-6.101	***
	7.91	1.95	8.73	1.90	-2.939	**
	7.67	1.84	8.84	1.93	-4.168	***
	9.36	1.68	10.04	1.61	-2.973	**
身 体 的 能 力	23.18	5.22	26.18	5.24	-8.628	***
日常的行動 身体的耐性 野外技術・生活	5.96	2.66	9.47	2.31	-10.596	***
	9.51	1.79	10.24	1.61	-3.315	**
	9.09	1.76	9.89	1.72	-3.092	**

***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05 †p<0.10

	事前調査		事後調査		t 値	p
	平 均	標準偏差	平 均	標準偏差		
MLGsの力	119.36	16.63	135.38	18.93	-7.324	***
多様な生き物を守ろう	29.62	4.83	33.31	5.21	-5.579	***
水辺も湖底も美しく	29.24	5.45	32.87	5.64	-4.686	***
恵み豊かな水源の森を守ろう	30.15	5.08	34.42	4.69	-7.266	***
地元も流域も学びの場に	30.36	4.31	34.78	4.92	-7.433	***

t 値とは：統計的仮説検定において、サンプルデータが仮説の下でどの程度極端であることを示す値。統計的仮説検定で使用される重要な統計量で主に、平均値の差が統計的に有意かどうかを検定するために使用

P 値とは：統計的仮説検定において、観測データが無作為な変動によって生じたものであると仮定した場合、そのデータがどれだけ極端であることを示す指標。無差仮説が真であると仮定したときに、観測データまたはそれ以上に極端なデータが観測される確率を表す。p 値が小さいほど、無差仮説を棄却する証拠が強いことを示す

※[*] アスタリスクマーク：個数が多いほど優位性が高い

※[n.s.] Not significantの略：優位差なし

両側検定とは：無差仮説が棄却される条件が両端にある検定方法。サンプル平均が母平均と異なるかどうか、つまり差がプラスでもマイナスでも有意な差であれば検出するという考え方

希望が丘夏休みわんぱくキャンプ「生きる力」[MLGs]の変容：子どもへのアンケート結果 (事前) (事後)

公益財団法人滋賀県希望が丘文化公園

	月 日	人 数
事前調査	7月28日	55
事後調査	9月24日	55

『令和6年度 文部科学省委託「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」
教育的効果の高い長期自然体験活動の構築・普及事業』希望が丘夏休みわんぱくキャンプ
分析方法：対応するデータのt検定 <参加者へのアンケート結果>
[IKR]の変容 & [MLGs力]の変容

性 別	学 年			計
	4年 (データ処理: 1)	5年 (データ処理: 2)	6年 (データ処理: 3)	
男子 1	3	10	10	23(42.6%)
女子 2	6	9	16	31(57.4%)
計	9(16.7%)	19(35.2%)	26(48.1%)	54

能 力	事前調査		事後調査		t 値	p
	平 均	標準偏差	平 均	標準偏差		
I K R	125.19	20.383	135.81	22.052	-4.85	***

心理的社会的能力	事前調査 平均	事前調査 標準偏差	事後調査 平均	事後調査 標準偏差	t 値	p
非依存	61.87	11.27	66.98	12.054	-4.018	***
非依存	8.7	2.08	9.35	2.208	-2.673	*
非依存の向上が少ししか見られなかった理由は、リーダーが嫌だと感じているだろうなと思ったとき、子ども達の反応を待つことなく先に反応してしまっていた。もっと子どもの自分で考える時間を作るべきだった。また、失敗する事を恐れない事に関して、失敗しづらい内容のプログラムやリーダーが子ども達に失敗しないように立ち回り過ぎてしまい、失敗する機会があまりなかった。来年度からは、子ども達が大きな挑戦できる機会を設け、失敗をしてもいいという立ち回りをすることが大切ではないかと考える。 (ちやーてえ)						
積極性	8.93	2.091	9.54	1.798	-2.354	*
積極性						
積極性に関しては、調理で積極的に動いたり考えたりしている場面がよく見受けられた。しかし、7日間を通して活動の6割近くが調理に関する物であったためそれ以外で挑戦する機会がすくなかった。調理以外にも、子ども達が自主的にもの作りを行えるプログラムを増やしたり、リーダーが声を掛け過ぎずに子ども達が自分の意志で動く時間を待てるくらいのゆとりのあるプログラムの組み方を行うとより向上するのではないかと考える。 (ちやーてえ)						
明朗性	8.91	2.497	9.63	2.429	-2.392	*
明朗性						
明朗性の向上が少ししか見られなかった理由は非依存の内容とも関わってくるが、失敗をしないように始めから組み込まれたプログラムが多かったため、その結果、立ち直ろうとする機会自体少なかった事が考えられる。また、班内などで一度仲良くなってしまった固定の友達と多く話していた場面も見受けられた。これは、自己開示をする機会をもっと設ける事で向上につながれるのではないかと考える。7日間を通して、自己開示をするプログラムと言えばアイスブレイクぐらいだったので、もっと自己開示ができるプログラムを入れ、共通点等の話しのきっかけを提供するべきであった。 (ばおばお)						
交友・協調	8.98	2.097	9.59	2.399	-2.354	*
交友・協調						
交友・協調に関して、少ししか向上が見られなかった理由として主に2つが挙げられる。一つ目はグループの固定化である。常に行動は班単位で行っており、他の班と協力して行うプログラムがほとんどなかった。それによって、班内では誰でも仲良くできていても全体を見てみるとそれほど全員と関わる事ができていなかったのではないかと感じた。2つ目は、キャンプのプログラムが過密であった事が考えられる。体力的な疲れから、他の人と交流する為のエネルギーが残っておらず、人と積極的に関わる意欲が湧かなかったと言うことが考えられるのではないだろうか。 (ばおばお)						
現実肯定	8.7	2.142	9.74	2.039	-4.472	***
現実肯定						
IKRの「現実肯定」において、影響が大きかったと思われる活動は、5日目に行った早朝登山です。私は、登山をする前日の夜まで「朝早く起きれないから行かない」「しんどいから登りたくない」などの否定的な発言を耳にしました。私が担当していた班の子どもたちは、体力に自信がない子どもが多く、「みんなで無事に登りることができるだろうか」と私自身も不安を抱いていたのが率直な感想です。しかし、当日は子ども同士で励まし合いながら、全員で登りることができました。否定的な発言をしていたとは思えないほど、「登山楽しかった」「班のみんなで登りることができて嬉しかった」と伝えてくれて、早朝登山という貴重な経験は、子どもたちにとって間違いなく、大きな力になったと思います。早朝登山という現実を受け入れ、「登りることができた」という達成感が自信へと繋がり、自己肯定感の向上に大きな影響を与えた活動になったと思いました。 (にひる)						

<p>希望が丘夏休みわんぱくキャンプでは三上山での登山に挑戦した。早朝から決行に、眠い目を擦りながらも高くそびえ立つ山に怖じけることは無かった子どもたち。それどころかワクワクした様子の子どもの姿もあった。登っていくにつれて子どもの表情は険しくなり仲間同士の会話も次第に減っていく中でも、鼓舞するかのように励まし合う言葉かけをする子どもも見受けられた。こまめな水分や塩分の補給や休息の時間を取りつつ、何とか登りきった子どもたちの表情は疲れよりも達成感に満ちていた。また、三上山の頂上から望む景色に見惚れながらおやすびを頬張る子どもの様子も、登山前の姿よりも明るかった。(ぶりめる)</p>						
<p>わんぱくキャンプを通して、IKRの項目の1つである「現実肯定」について、向上したと感じた。これは、4日目の「食材調達戦」が特に影響していると考ええる。 食材調達戦では、班のメンバーと協力をしてゲームを行い、分けられている野菜や肉を手に入れ、レシピを考えて調理をした。班の子どもも中心で手に入れた食材で何が作れるか、何を作りたいかを話し合うため、調理が難しい食材だったとしても現実を受け入れ、失敗を恐れず進めていく力を身につけたと考ええる。(すやあ)</p>						
視野・判断	8.26	2.13	9.06	2.244	-2.854	**
<p>視野・判断では、積極的なフィードバックをする機会をもっと設けていけばさらに向上できていたのかなと考えた。毎日1日が終わる時に子ども達に絵日記を書いてもらい、リーダーからのメッセージを付け足して次の日の朝に返却すると言うのをくり返していた。しかし、喜んでもらおうと肯定的な意見ばかりを返信しがちになっていて、子どもは問題点を指摘される事が少なかったため、自己反省や改善の機会が減り、自己管理能力がある程度までしか育たなかったのではないだろうか。(ばおばお)</p>						
適応行動	9.39	1.709	10.07	1.789	-2.782	**
<p>適応行動では、役割分担の固定化を防げば、更に向上できていたと考ええる。グループ内で強いリーダーシップや強い意志を持っている人がいると、その人の意見にまかせてしまう傾向がある。今回のキャンプでは、7日間を通して班長や副班長、時計係などの役割分担が固定されてた事により、自分に関係あることは聞く耳を持っていても役割分担に関係ないところでは、話しをあまり聞かなかったり、自分の意見が言いづらくなったりして、その場にふさわしい行動ができない場面が出てきたのではないかと考えた。役割分担を日ごと等で交代していればいつかその役割が当たるかも知れない上、初めてその役割に当たった他の人にも教えられるかと耳を傾け、常にその場に合った行動を常に意識できるのではないだろうか。(ばおばお)</p>						

徳育的能力	38.19	6.259	40.76	6.625	-3.697	**
自己規制	9.37	2.333	10.15	1.956	-2.724	**
<p>自己規制の向上が見られたがさらに向上するためには、資源の大切さの考え方をもっと伝えるべきだったと考える。今回のキャンプを通して、MLGsの間伐材の再利用や食品ロスを抑えるために調理での声掛けを主に行った。今回は間伐材を使ったプログラムが多かったため、他にも無駄使いをしないでおうとうという声掛けをすれば更に向上が見られるのではないかと考える。(ちやーてえ)</p>						
自然への関心	9.09	2.467	9.98	2.544	-4.353	***
<p>子供たちの自然への関心は希望が丘の豊かな自然と実際に触れ合ったことによって向上したと考える。 希望が丘夏休みわんぱくキャンプでは2日目のハイキングで琵琶湖に関するクイズを解いたり、道中で虫の声や風で木の葉が揺れる音などをゆっくり聞いたりすることで自然を体で感じる事が出来た。3日目のオーパルでのプログラムではカヌー体験やヨシ笛づくりを通して琵琶湖の自然保護の活動や生態系について学ぶことが出来た。4日目の秘密基地づくりでは間伐材を使用して自然を有効に活用するといった体験が出来た。5日目の登山では2日目のハイキングとは違った早朝の時間帯に自然と触れ合うことで今まで経験することが少なかった山に生えている草花の観察、山頂から見える景色、鳥や虫の声を聞くことで貴重な自然体験が出来た。 このような希望が丘の自然を活かした活動によって子供たちの自然への関心が向上したと考えた。(ばたばた)</p>						
<p>自然への関心が高まったポイントとして、オーパルで琵琶湖の植物を観察したり、よしぶえ作りを通じて自然の素材に触れる活動が挙げられます。また、6泊7日のテント生活では、虫の声や朝の鳥のさえずりを聞くことで、自然を身近に感じる機会となりました。さらに、わんぱくキャンプでは、間伐材を使ったネームプレート作りや秘密基地作り、輪投げ作りを通して、間伐材という自然保護活動に触れ、考えるきっかけが得られたことも、自然への関心を深める重要な要素となりました。(るぱー)</p>						
<p>希望が丘夏休みわんぱくキャンプでのアンケート結果より、自然への関心の項目に向上が見られるということに関して、6泊7日という長い間、テレビやスマートフォンなどの電子機器から離れ、自然がすぐ側にある環境で活動したことが大きく影響していると考ええる。活動の中でも、琵琶湖でのよしの観察や木を使った秘密基地作りなど、直接自然に触れるプログラムが多くあったことも興味を持つきっかけになったのではないだろうか。また、全てのプログラムにおいて、自然とどのような繋がりがあるかをリーダーが繰り返し説明をしながら行ったり、楽しめるようクイズ形式で自然に関することを伝えたりと、様々な方法で自然に触れる手助けをしたことも向上に繋がった要因の一つだと考えられる。(みんと)</p>						
まじめ勤勉	10.09	1.628	10.3	1.91	-0.737	n.s.
<p>道徳的能力のうち、「まじめ勤勉」の項目であまり向上が見られなかった。危険予知トレーニング(KYT)で、班の仲間たちと協力して危険な部分を探し出し、どのように改善すべきかを話し合うプログラムが行われた。また、ロープワークでは「間伐材」がについて知り、その間伐材を実際に使って秘密基地を作った。道徳的能力の数値としては、あまり向上が見られなかったが、多くの子どもたちが学習する機会を設けられ、熱心にプログラムに取り組むことができた。(コットン)</p>						

<p>まじめ、勤勉分野に関して、わんぱくキャンプは、全体を通して子どもの自主性や、初めて会う子と、慣れない環境で協力し合うことを学べるものであることから、お互いの苦手なものは認め合い、活動に対して無理強いをするようなことはないため、まじめ、勤勉に物事を進めるのではなく、子ども一人ひとりの様々なものに対する興味関心を引き出すような活動になっている。また、わんぱくキャンプは野外活動を主としており、ハイキングやテントでの宿泊など、正解のない活動を多く行っており、活動中に見られる子どもの個性を受け入れ、考えの違いを楽しめるようにしているため、何かに向かってまじめ、勤勉に取り組むものではないのである。（カリカリ）</p>						
思いやり	9.63	1.815	10.33	1.893	-3.286	**
<p>この項目に向上が見られたのは、7日間朝から晩まで仲間と過ごすことから、相手のことを考えながら過ごす機会が多かったため向上したと考える。さらにこの項目が向上するためには、リーダーがこれまで以上に目を見ながら感謝をしっかりと言葉で表し、子供の手本となるように接するとさらに向上すると考える。（ちゃーてえ）</p>						

身体的能力	25.13	5.65	28.07	5.847	-5.03	***
日常的行動	7.96	2.441	8.91	2.497	-3.565	**
<p>水分補給や食事などは夏でも食べやすい物・冷たい物を意識したり、保冷剤の配布など暑さ対策もしっかり行い体調を整える環境作りを行っていたが、プログラムがキツキツすぎたため、休憩を十分に取れず疲れがたまっていき、疲れやすくなってしまったのかなと考えた。早寝・早起きも同様の事が言えると思う。また、普段とは違う環境で精神的な不安やストレスも少なからずあったと思うので、精神的な疲労が体に影響を与えていたことも一因と考えられる。来年度は不安を共有できる環境作りにももっと力を入れるべきだと感じた。（ばおばお）</p>						
身体的耐性	8.37	2.644	8.8	2.844	-1.399	n.s.
<p>令和6年度「希望が丘夏休みわんぱくキャンプ」では、参加者の「IKR」や「MLGs力」（生活目標達成能力）の変容を測定するために、対応するデータの+検定を用いて分析が行われた。その結果、「IKR」の項目の一つである「身体的耐性」に関しては、全体的な向上があまり見られなかった。しかし、本キャンプには「身体的耐性」を向上させる可能性を秘めたプログラムが複数あった。その一例が登山である。このプログラムは、体力を必要とする活動を通じて自己の限界を超える経験を提供し、参加者が身体的な挑戦を乗り越える達成感を得られる点で、「身体的耐性」の向上に寄与する可能性が高いと考えられる。今後のプログラム設計では、このような身体的挑戦を積極的に取り入れ、その教育的効果をさらに高める工夫が求められる。（ネモ）</p>						
<p>IKRにおいて「身体的耐性」の数値向上があまり見られなかった理由について、以下の2点が考えられます。まず、6泊7日という期間では身体的能力を向上させるには短すぎた可能性があります。プログラム内で登山やハイキング、規則正しい生活を取り入れましたが、こうした能力の向上には継続的な取り組みが必要であり、短期間では効果が限定的だったと考えられます。次にプログラムが過密であったことも一因といえます。詰め込みすぎたスケジュールによって、参加者が十分なエネルギーを発揮できず、次の活動に疲労を持ち越し、結果的に活動ごとの効果が最大化されなかった可能性があります。これらを踏まえ来年度のプログラムでは、スケジュールにゆとりを持たせ、疲労を軽減しつつ、キャンプ終了後も継続して取り組める仕組みを構築することで、「身体的耐性」向上の効果を高める必要があると考えます。（ばおばお）</p>						
<p>身体的耐性が向上しなかった理由は、この能力を高めるには長期間の取り組みが必要であり、1週間のキャンプという短期間では不十分であるという点にあると考える。確かに、身体的耐性を高めるためのイベントとして、山登りや気温差が激しい環境でのキャンプが実施されているが、それらの活動も1週間という短期間では効果を実感することは難しい。耐性を向上させるためには、長期的かつ継続的な取り組みが必要であり、短期間の取り組みでは効果が現れにくい。そのため、キャンプ後も子どもたちが主体的に取り組める活動を提案し、持続可能な環境を整えることが重要である。その際、単に活動内容を提案するだけでなく、子どもたちがその活動に興味を持ち、意欲的に取り組めるような工夫が求められる。これにより、身体的耐性の向上を目指すことが可能となると考える。（とんこつ）</p>						
野外技術・生活	8.8	2.004	10.37	1.73	-6.058	***
<p>わんぱくキャンプを通じて、IKRの身体的能力に関する「野外技術・生活」のスキルが向上したことが確認された。事前調査では平均8.8（標準偏差2.004）だった数値が、事後調査では平均10.37（標準偏差1.73）に改善している。キャンプでは、参加者が協力して火起こしを行い、その火を使って野外調理を体験した。この過程で、食材の大切さを学び、できるだけ廃棄を出さないように工夫しながら調理を進めることが求められた。また、テント泊などの活動を通して、自らの手で生活を作り上げる達成感や、新しいスキルを身につける喜びを味わう機会が多くあった。こうした体験を通じて、子どもたちが実践的な野外スキルを身につけるだけでなく、協力することの大切さや環境に配慮する姿勢も育まれたと考えられる。わんぱくキャンプを通じて、IKRの身体的能力に関する「野外技術・生活」のスキルが向上したことが確認された。事前調査では平均8.8（標準偏差2.004）だった数値が、事後調査では平均10.37（標準偏差1.73）に改善している。キャンプでは、参加者が協力して火起こしを行い、その火を使って野外調理を体験した。この過程で、食材の大切さを学び、できるだけ廃棄を出さないように工夫しながら調理を進めることが求められた。また、テント泊などの活動を通して、自らの手で生活を作り上げる達成感や、新しいスキルを身につける喜びを味わう機会が多くあった。こうした体験を通じて、子どもたちが実践的な野外スキルを身につけるだけでなく、協力することの大切さや環境に配慮する姿勢も育まれたと考えられる。（ころも）</p>						

野外技術・生活の事前調査・事後調査の平均を比べてみました。すると事前調査8.8から事後調査10.37と能力が格段に伸びている事が分かります。これはハイキングや登山で聴覚・視覚・嗅覚など様々な面から「自然」を学んだり、ロープワークのはしご作りや秘密基地作りで間伐材を使用した事で「自然」を守る事に繋がるという事を学んだりしたからです。また、野外調理では生きている鮎を自分で捕まえて桶の水でぬめりをとり調理したり、丸鶏を解体して作ったピア缶チキンを見たりして、命の大切さやありがたさを学びました。一人で行うのではなく、仲間と共に相談・協力し合う事で協調性や主体性を身につけ、より野外活動への意欲を高める事が出来ました。このように自然・間伐材や水・命の大切さをMLGsを取り入れた事や仲間との助け合いの中で野外技術・生活の能力が向上したと考えます。(うに)

わんぱくキャンプで、ともに生活する中で子どもたちの野外技術・生活の能力の成長には驚かされました。初めは、薪割りや火を使って調理することは、ほとんどの子どもたちにとって初めての経験でした。わんぱくキャンプ前半は、火の近くは熱いからと調理に加わらない子もいました。しかし、4日目のチャレンジクッキングでは、子どもたち自身で考えたレシピで調理するときに、自分から火の調整をしてくれる子が居たり、調理の手順について子どもたち同士で相談して困難を乗り越えたりする様子を見ることができました。

このように、子どもたちは限られた期間の中で大きく成長し、自分の力で新たな挑戦に取り組む姿を見せてくれました。これらの野外調理の経験を通じて子どもたちの野外活動・生活の能力が伸びたと考えます。(でんぶん)

***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

<「身体的耐性」および「まじめ勤勉」に関して>

身体的耐性に関する n.s.の値は十分な耐性が身につけていないが、プログラムの内容から一定の耐性は向上していると考えられる。しかし、子どもたち自身がその成長やできるようになったことに気づいていないことが、数値に反映されていない理由の一つと推測される。この理由は、「まじめ勤勉」の項目の n.s.においても同様である。子どもたちの成長への気づきを促すためには、キャンプリーダーが具体的な声掛けを通じて成功体験を強調し、次の挑戦へのモチベーションを引き出すことが重要である。特に登山に向けては、2日目の小ハイキングの成功体験をモチベーションに結びつける工夫が必要となる。小ハイキング後に振り返りの場を設け、「次は山登りに挑戦する」という目標を共有することで期待感を高めるとともに、登山への不安を軽減させることが効果的である。さらに、「小ハイキングでここまで頑張れたから、登山もきっと大丈夫」といった励ましの言葉をリーダーから伝えることで、子どもたちの自信を後押しできる。また、登山を班全員で挑むチャレンジとして位置づけ、仲間と助け合いながら達成する楽しさを伝えることが大切である。登山後にも振り返りの時間を設けて自分や班としての成長や達成感を言葉にする機会を作り、家族に成果を報告できるよう「登山達成カード」や写真を用意するなど、成功体験を記録として残すことも工夫として挙げられる。

これらの対策を通じ、子どもたちが前向きに登山へ挑戦し、自身の成長を実感できる環境を整えられる。そのため、今回は、プログラムの計画段階から子どもたちの気づきを深める仕組みを導入することが重要である。例えば、活動の開始時に「今日達成したいこと」や「挑戦したいこと」を各自が記入するカードを配布し、振り返りの際にこれを用いて自分の成果を確認する場を設ける。このような方法を通じて、子どもたちが自身の成長を意識しやすくなることのできる。

<文責：おーたむ(キャンプリーダー)>

N=54

	事前調査		事後調査		t 値	p
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
MLGsの力	134.74	18.957	152.92	13.63	-10.2	***

多様な生き物を守ろう	32.58	5.914	36.68	4.233	-6.644	***
------------	-------	-------	-------	-------	--------	-----

MLGsの多様な生き物を守ろうという分類では、全体的にもアスタリスクが高く、特に5・6年生に多いことが分かりました。高い理由として、3つのプログラムが関連していると考えられます。1つ目は、小ハイキングです。自然の中を歩くことで聴覚(川の流れる音、木の葉の揺れ、取り虫の鳴き声など)、視覚(たくさんの植物、様々な生き物など)、嗅覚(森の中の澄んだ匂い、草花の匂いなど)様々な面からも「自然」を自分の身で実際に体験したからこそその美しさを味わったためと考えられます。2つ目に、登山です。早朝から3時間以上かけて登るといふ貴重な体験を味わったとともに、時間帯による音の違いや見る景色といった山でしか感じ取れない部分に触れることができました。加えて、野外調理では、生きた鮎を捕まえて調理するという工程を自分たちで行いました。このことから、自然に加え命のありがたみを考えるきっかけになったのではないのでしょうか。最後に、キャンプリーダーの要所での声掛けが上昇への後押しになったと考えられます。登山や鮎でも単に歩いて食べるだけでは生き物への関心は向きません。適度な説明、触れる機会を設けたことにより子どもたちの中で意識的に考えることを促進したと考えられます。(かけごはん)

「多様な生き物を守ろう」という項目は、全体、学年、性別全て事前調査より事後調査の結果が向上していることが分かる。これには、5日目で行われた野外調理の影響が特に大きかったのではないかと私は考える。ピア缶チキンは主にサポートスタッフが調理していたが、実際に焼いているところを子どもたちにも見てもらった。鮎の塩焼きでは、生きている鮎を捕まえるところから始まり、血抜きまで子どもたちが行った。怖がっている子どももいたが、興味津々で積極的に調理している子どもが多かった印象がある。自分たちの手で生き物を捕まえて食べられるように調理する経験やその様子を見ることで、生き物の「命」をいただいているという感謝の気持ちや、多様な生き物を大切に守っていく気持ちが向上していったと思う。(サリユー)

わんぱくキャンプを通して、MLGsの項目の一つである「多様な生き物を守ろう」について、子どもたちの理解が深まったことが分かった。これは、プログラム中のキャンプファイヤーが影響していると考ええる。

キャンプファイヤーでは、ローインパクトとして、地面に直接火が触れないように木の上に薪を組んで、土に住んでいる微生物への負担を減らした。これをキャンプリーダーが子どもたちに十分説明した。

プログラムでというわけではないが、毎食「いただきます」「ごちそうさま」を言葉にすることで生き物の「命」をいただいているという、自然の恵みを感じることができるようになり、生態系を守ることができると伝えた。

6泊7日を通して、自然とたくさん触れ合い子どもたちは食べ物へのありがたさ、自然の中の生き物の大切さを理解した。
(らぶ)

水辺も湖底も美しく	34.26	4.892	37.94	3.963	-6.611	***
-----------	-------	-------	-------	-------	--------	-----

「水辺も湖底も美しく」という項目でIKRが向上した理由としては、琵琶湖についての理解を深められるようなオーパルでの学習や、主に調理をする際の資源の活用に関するリーダーの声掛けがあげられると思います。前者では、琵琶湖について理解を深めてもらうプログラムを組み込むことで、琵琶湖を大切にしようという意識を持ってもらえるようにしました。後者に関しては、使う洗剤の量を少なくすることや調理をするときのごみの量を減らすために野菜の皮まで使ったり廃棄する部分を極力小さくしたりすることに関して声掛けを行っていました。リーダー一人一人が無駄なく資源を活用するような姿勢で行動していたことも理由としてあげられると考えます。
(くるとん)

恵み豊かな水源の森を守ろう	35.98	4.589	39.38	3.277	-7.287	***
---------------	-------	-------	-------	-------	--------	-----

わんぱくキャンプを通して、子どもたちのMLGsへの理解が深まった。特に「恵み豊かな水源の森を守ろう」というテーマについて、どのようなプログラムが影響したのか。まず、子どもたちは「丘ノート」というノートを作成し、キャンプで学んだ内容を記録した。このノートがMLGsの理解向上に役立ったといえる。そして、1日目の名札作りでは間伐材を使用し、間伐材についての説明を行った。また、2日目のロープワークや4日目の秘密基地作りでも間伐材を使用した。その際に、1日目に行った間伐材の説明を、子どもたちは2日目や4日目にも覚えており、間伐材についての理解が深まっていることが確認できた。

このように、わんぱくキャンプでは様々なプログラムで間伐材を使用することで、子どもたちは間伐について学び、理解を深めることができた。また、小ハイキングや三上山への登山を通して自然と触れ合うことで、自然の楽しさを実感し、森を守りたいという思いも子どもたちの中で強まったと考える。
(あれら)

湖を舞台とした自然体験活動が豊富で、子どもたちが水辺や湖底の美しさや環境保護の重要性を実感できた可能性がある。例えば、O'PALまでの行き帰りでMLGsについてのクイズやO'PALでカヤックに乗り琵琶湖の水に実際に触れるなど、直接的な関与を促すプログラムが向上に繋がったと考えられる。

また、キャンプリーダーが環境保護(MLGsなど)についての意識を高める働きかけを行い、子どもたちに「楽しい」だけでなく「学び」を提供できたことが影響した可能性としてある。

日程の中で、水辺の活動が前半に組み込まれ、その後の振り返りの場が設けられたことで、活動の意義を深く理解する時間が確保されたことが、P値向上に寄与したのではないかと考えられる。

以上により、活動の魅力と指導力の双方が「水辺も湖底も美しく」という項目の向上に影響したと推察される。
(おちょ)

わんぱくキャンプを通して、MLGsの一つである「恵み豊かな水源の森を守ろう」について、子どもたちの理解が深まったことが分かった。これは、キャンプのプログラムである、ネーム作りと秘密基地作りが影響していると考ええる。

ネーム作りでは、6泊7日のキャンプで使用される名札を作成した。この名札に使用されている材料は間伐材である。森を守る方法の一つとして間伐がある。この間伐ということ子どもたちに十分な説明を行った。7日間、身に付けていた名札は子どもたちにとって宝物のように大切にしていたものである。

秘密基地作りでは、間伐材を使用して秘密基地を作成した。班の仲間たちと協力して秘密基地作りに励む子どもたちの姿がたくさん見られた。秘密基地が完成すると達成感を仲間と共に共有していた。

これらのプログラムを通して、子どもたちが間伐について知るとともに間伐材を手に取り体感することができた。
(カシャボ)

地元も流域も学びの場に	31.91	6.374	38.92	3.872	-9.18	***
-------------	-------	-------	-------	-------	-------	-----

わんぱくキャンプ全てが滋賀県の希望が丘文化公園を中心とした環境学習のフィールドとなり体験と実践の連続で、学びの場への関心に繋がったと感じます。特に公園内のハイキングでは各班で自分たちで地図を見ながら歩き、子どもたちからは「めっちゃ自然!」と感動の声が聞こえました。その経験からむやみに植物をちぎらないようになり、ちぎろうとしている子にやめようと呼ぶ声をかけみんな大切にしようとしている姿が見られました。また3日目の琵琶湖ではオーパルという施設に行き、専門の方とカヌー体験などの自然体験学習に取り組みました。その後の食事後の洗い物では水を極力ださない、泡をできるだけ流さないように洗剤の量に気をつける、ホーミングコートの余りを洗剤代わりするなどそれぞれが琵琶湖の美しい水を守るために工夫していました。この景色を誰かと共有したい、来年も来たいという気持ちから自然を守ろうとする行動に繋がったと思います。(すふれ)

今回の6泊7日のわんぱくキャンプで「地域も流域も学びの場に」という項目で向上が見られた理由は、琵琶湖と触れ合うプログラムである、オーパルが関係していると考えられる。オーパルでは、カヌーやドラゴンボートでの体験、ヨシ笛作りを行った。カヌー、ドラゴンボートでは琵琶湖にはどのような植物や生物がいてどのような影響を琵琶湖にもたらしているのかを水と直接触れ合いながら考えた。また、琵琶湖の水が私たちの地域でどこに活用されているのかについても学習した。

ヨシ笛作りでは、楽しむ中で「ヨシ」という普通に生活してはあまり触れることの無い琵琶湖の植物について学習した。ヨシが地域に必要な理由についても学び、皆で考えた。

最後に、オーパルで学んだことを「丘ノート」というノートに子どもたちが自分でまとめることでより学びを深められたと考えられる。
(ずーちい)

MLGsの項目の一つである「地域も流域も学びの場に」の項目の数値が大幅に大きくなった理由として、普段経験できない場所での活動が出来たからだと考えます。

6泊7日のキャンプのプログラムを考える際に、普段活動できない場所であまり出来ない経験をしてもらいたいという思いで、ハイキングや登山、琵琶湖でのプログラムを取り入れました。これらのプログラムを行う際にただの経験として行うだけでなく、滋賀県や琵琶湖についてのクイズ、山から聴こえる音について考えるプログラム、ヨシについてのお話を聴くなど、楽しみながらも山や琵琶湖について知って欲しく、発見・学べるプログラムを行いました。

経験から学びに繋がるようにプログラムを組んだので、数値が向上して良かったです。

(チャーてえ)

分析のまとめとプログラム普及に向けた具体策

これまでの分析を踏まえると、プログラムの効果を最大化し、子どもたちの成長を促すには、体験と振り返りのバランスを重視し、プログラム構成や相互のつながりを再検討することが重要である。特に、小学4年生や5年生がプログラムを通じて成長に気づける仕組みを意図的に取り入れる必要がある。活動後の振り返りの時間を確保し、成功体験や挑戦の成果を自覚できる場を設けることで、心理的社会的能力の向上が期待できる。また、キャンプリーダーには、事前研修で活動の意図やプログラム同士のつながりを十分に理解し、活動の要点や意義を的確に子どもたちに伝えることが求められる。

普及に関しては、今回の事業を改善し、来年度も継続して開催することが重要である。プログラムの構成や運営における改善点を反映し、今年度の結果と来年度の結果を比較することで、効果の変化やさらなる改善の方向性を明確にすることが可能となる。また、得られたデータや成果を公開し、プログラムの具体的な実践方法や成功事例を広く発信することで、他の教育現場や地域にも参考にされ、普及が進むと考えられる。

また、キャンプの成果を基に、教育関係者を対象とした研修会やシンポジウムを開催し、プログラムの設計理念や運営ノウハウを共有する場を設けることで、教育現場全体での応用や発展が期待できる。このように、継続的な改善と効果的な情報発信を通じて、事業の意義を広く認知させるとともに、その価値をより多くの人々に届けることが普及につながると考える。

<文責：おたむ（キャンプリーダー）>

希望が丘キャンプリーダーからの所見

<総括：チーフ まにまに>

わんぱくキャンプという6泊7日の長期キャンプのチーフという立場を経験して、やはり一番感じたのは子どもの成長です。調理の際も野菜もなるべく捨てずに使うように考えられるようになっていたり、自分で考えてこの食材はこの切り方が良いと意見を主張できていたり、初日とは見違える光景が後半にはありました。SDGs, MLGsに関してもリーダーが教えたことをみんな積極的にノートにまとめており、学校では学べないことを、よく習得できていたと感じています。

自分自身も子どもの頃にこのキャンプに参加したことがあり、その時にとても楽しかったという思いが強く、今回参加してくれた子どもたちもそう思ってくれたなら幸いです。わんぱくキャンプはリピーターも多いキャンプなので、今年参加してくれた子どもたちが来年にグループを引っ張ってくれることを期待しています！

子ども（性別）

性別 = 1

N=23

能力	事前調査		事後調査		t 値	p
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
I K R	126.26	22.842	136.74	24.24	-4.341	***
心理的社会的能力	62.48	12.154	67.26	13.431	-3.349	**
非依存 積極性 明朗性 交友・協調 現実肯定 視野・判断 適応行動	9.13	2.096	9.65	2.461	-1.518	n.s.
	8.91	2.193	9.65	1.849	-1.877	n.s.
	9.22	2.354	9.57	2.711	-0.879	n.s.
	8.74	2.32	9.17	2.871	-1.361	n.s.
	9	2.195	10.09	1.998	-3.161	**
	8.13	2.242	9.04	2.477	-2.494	*
	9.35	1.695	10.09	1.929	-2.04	n.s.
徳育的能力	37.65	7.056	40.13	7.449	-2.876	**
自己規制 自然への関心 まじめ勤勉 思いやり	9.74	2.094	10.3	1.769	-1.736	n.s.
	8.83	2.871	9.7	3.267	-3.233	**
	9.78	1.858	10.17	1.8	-1.013	n.s.
	9.3	2.098	9.96	2.383	-2.182	*
身体的能力	26.13	5.521	29.35	5.654	-4.578	***
日常的行動 身体的耐性 野外技術・生活	8.96	1.821	10	1.883	-3.355	**
	8.7	2.548	9.22	2.467	-1.572	n.s.
	8.48	2.213	10.13	2.052	-4.467	***

***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

性別 = 2

N=31

能力	事前調査		事後調査		t 値	p
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
I K R	124.39	18.704	135.13	20.667	-3.152	**
心理的社会的能力	61.42	10.751	66.77	11.15	-2.724	*
非依存 積極性 明朗性 交友・協調 現実肯定 視野・判断 適応行動	8.39	2.044	9.13	2.012	-2.178	*
	8.94	2.048	9.45	1.786	-1.476	n.s.
	8.68	2.613	9.68	2.242	-2.299	*
	9.16	1.934	9.9	1.972	-1.913	n.s.
	8.48	2.111	9.48	2.064	-3.145	**
	8.35	2.074	9.06	2.097	-1.742	n.s.
	9.42	1.747	10.06	1.711	-1.901	n.s.
徳育的能力	38.58	5.685	41.23	6.026	-2.537	*
自己規制 自然への関心 まじめ勤勉 思いやり	9.1	2.495	10.03	2.105	-2.139	*
	9.29	2.148	10.19	1.869	-3.029	**
	10.32	1.423	10.39	2.011	-0.165	n.s.
	9.87	1.565	10.61	1.407	-2.441	*
身体的能力	24.39	5.719	27.13	5.898	-3.099	**
日常的行動 身体的耐性 野外技術・生活	7.23	2.604	8.1	2.612	-2.158	*
	8.13	2.729	8.48	3.097	-0.748	n.s.
	9.03	1.835	10.55	1.457	-4.156	***

***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

性別 = 1

N=23

	事前調査		事後調査		t 値	p
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
MLGsの力	134.7	19.928	151.52	14.942	-5.713	***
多様な生き物を守ろう	33.26	6.355	37.04	4.051	-3.959	**
水辺も湖底も美しく	33.39	4.727	36.61	4.449	-3.601	**
恵み豊かな水源の森を守ろう	36.57	4.294	39.13	3.817	-3.697	**
地元も流域も学びの場に	31.48	7.68	38.74	4.351	-5.02	***

性別 = 2

N=30

	事前調査		事後調査		t 値	p
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
MLGsの力	134.77	18.522	154	12.687	-8.652	***
多様な生き物を守ろう	32.07	5.607	36.4	4.415	-5.304	***
水辺も湖底も美しく	34.93	4.989	38.97	3.264	-5.665	***
恵み豊かな水源の森を守ろう	35.53	4.826	39.57	2.849	-6.579	***
地元も流域も学びの場に	32.23	5.276	39.07	3.532	-8.593	***

子ども (学年)

学年 = 1

N=9

能力	事前調査		事後調査		t 値	p
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
I K R	127.22	23.684	134	29.504	-1.115	n.s.
心理的社会的能力	61.11	12.781	66.22	14.55	-2.003	n.s.
非依存	8.56	1.424	8.89	2.619	-0.555	n.s.
積極性	8.56	2.455	9.56	2.297	-1.455	n.s.
明朗性	8.56	2.698	8.44	2.555	0.16	n.s.
交友・協調	9.11	3.1	9.78	2.991	-1.333	n.s.
現実肯定	8.78	2.333	10.11	1.691	-2.53	*
視野・判断	8	1.936	8.67	3.082	-0.834	n.s.
適応行動	9.56	1.13	10.78	1.716	-1.908	n.s.
徳育的能力	40.33	6.364	40.78	8.7	-0.191	n.s.
自己規制	10.78	1.302	10.56	2.007	0.359	n.s.
自然への関心	9.78	2.224	10.11	2.713	-0.632	n.s.
まじめ勤勉	10.56	1.667	10.67	1.732	-0.197	n.s.
思いやり	9.22	2.333	9.44	2.92	-0.263	n.s.
身体的能力	25.78	5.518	27	7.649	-0.734	n.s.
日常的行動	8.22	2.048	9.22	2.438	-1.177	n.s.
身体的耐性	8	2.828	8.33	3.571	-1	n.s.
野外技術・生活	9.56	2.186	9.44	2.506	0.151	n.s.

***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

学年 = 2

N=19

能力	事前調査		事後調査		t 値	p
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
I K R	125.05	16.133	129.74	19.952	-1.213	n.s.
心理的社会的能力	62.63	8.883	63.37	11.476	-0.345	n.s.
非依存	9.21	1.813	9.32	2.187	-0.271	n.s.
積極性	8.79	1.718	9.21	1.584	-1.166	n.s.
明朗性	9.37	2.033	9.53	2.366	-0.334	n.s.
交友・協調	9.21	1.718	8.89	2.726	0.688	n.s.
現実肯定	8.63	1.707	9.05	2.068	-0.969	n.s.
視野・判断	8.32	2.54	8.37	2.338	-0.097	n.s.
適応行動	9.11	2.105	9	1.856	0.233	n.s.
徳育的能力	37.79	5.75	39.63	6.148	-1.605	n.s.
自己規制	9.32	1.827	9.79	1.843	-0.941	n.s.
自然への関心	9.16	2.734	9.95	2.798	-2.395	*
まじめ勤勉	9.74	1.881	9.58	1.835	0.288	n.s.
思いやり	9.58	1.742	10.32	1.6	-3.071	**
身体的能力	24.63	5.55	26.74	5.616	-1.836	n.s.
日常的行動	8.21	2.463	8.74	2.446	-1.07	n.s.
身体的耐性	7.84	2.892	8	2.494	-0.243	n.s.
野外技術・生活	8.58	1.644	10	1.7	-3.768	**

***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

学年 = 3

N=26

能力	事前調査		事後調査		t 値	p
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
I K R	124.58	22.628	140.88	20.243	-6.306	***
心理的社会的能力	61.58	12.628	69.88	11.251	-4.763	***
非依存	8.38	2.418	9.54	2.14	-3.344	**
積極性	9.15	2.257	9.77	1.796	-1.481	n.s.
明朗性	8.69	2.768	10.12	2.372	-3.254	**
交友・協調	8.77	2.006	10.04	1.843	-3.734	**
現実肯定	8.73	2.426	10.12	2.065	-4.629	***
視野・判断	8.31	1.934	9.69	1.692	-4.711	***
適応行動	9.54	1.581	10.62	1.416	-3.674	**
徳育的能力	37.73	6.655	41.58	6.319	-4.605	***
自己規制	8.92	2.77	10.27	2.051	-3.434	**
自然への関心	8.81	2.384	9.96	2.391	-3.883	**
まじめ勤勉	10.19	1.415	10.69	1.934	-1.355	n.s.
思いやり	9.81	1.721	10.65	1.623	-2.848	**
身体的能力	25.27	5.95	29.42	5.232	-6.653	***
日常的行動	7.69	2.604	8.92	2.637	-4.03	***
身体的耐性	8.88	2.389	9.54	2.731	-1.59	n.s.
野外技術・生活	8.69	2.187	10.96	1.216	-7.062	***

***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05

学年 = 1

N=9

	事前調査		事後調査		t 値	p
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
MLGsの力	139.11	16.996	153.44	14.561	-3.279	*
多様な生き物を守ろう	32.33	5.339	37.33	4.664	-2.727	*
水辺も湖底も美しく	36.33	4.924	38.44	3.206	-1.717	n.s.
恵み豊かな水源の森を守ろう	37.33	3.571	38.89	3.655	-1.293	n.s.
地元も流域も学びの場に	33.11	5.419	38.78	3.833	-4.464	**

学年 = 2

N=19

	事前調査		事後調査		t 値	p
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
MLGsの力	130.72	22.725	147.83	16.716	-5.047	***
多様な生き物を守ろう	31.56	7.374	35.28	5.245	-3.415	**
水辺も湖底も美しく	32.83	4.95	36.11	4.639	-3.024	**
恵み豊かな水源の森を守ろう	35.06	5.567	38.28	4.026	-3.955	**
地元も流域も学びの場に	31.28	7.991	38.17	4.842	-3.991	**

学年 = 3

N=26

	事前調査		事後調査		t 値	p
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
MLGsの力	136	16.843	156.27	9.906	-8.609	***
多様な生き物を守ろう	33.38	5.021	37.42	3.075	-4.96	***
水辺も湖底も美しく	34.54	4.718	39.04	3.316	-6.199	***
恵み豊かな水源の森を守ろう	36.15	4.164	40.31	2.276	-6.761	***
地元も流域も学びの場に	31.92	5.556	39.5	3.127	-8.175	***

学年ごとの傾向「非認知能力に関する内容」

全体では*の評価であった一方で、学年ごとに見ると全ての学年でn.s.であるという結果は、唯一「積極性」の項目である。この結果は、プログラムにゆとりが持たず、キャンプリーターから子どもたちへ次々と活動を与えることが多かったのが原因の一つである。対策としては活動時間に余裕を持たせることや、活動後に振り返りの時間を設けることが挙げられる。

しかし、現段階では「ただ活動する時間が延びるだけ」となってしまう可能性がある。ここでは、子どもたち同士やキャンプリーターとの振り返り時間を明確に確保することが重要である。そのためには、活動終了時間に振り返りを含める必要があり、事前研修で活動の区切りや振り返り開始のタイミングを決めることが求められる。

振り返りの時間を十分に設けることで、子どもたちは自身の気づきや感想を共有しやすくなる。例えば、調理後には次回の効率化方法を話し合い、役割分担や計画を考えることで、積極性を育むことが期待できる。また、大きな活動の後に振り返りを行えば、次のプログラムへの意欲を高めたり、他者との感想の共有を通して自身の考えを深めたりする効果もある。

また、学年ごとにIKRの数値を見ると、学年=1(小学4年生)と学年=2(小学5年生)には多くのn.s.が目立ち、学年=3(小学6年生)は良化の傾向が見られる。学年=3に当てはまる参加者が最も多いという、対象の母数が違うため、このような結果である可能性がある。しかし、小学6年生は自分のできるようになったことを自覚する力があつたため、この結果であったと私は考えている。一方で、小学4,5年生はキャンプを通して自分のできるようになったことに気づけていない可能性がある。と推測した。子どもたちに過去の自分と現在の自分の違いを考える機会を作ること、気づきを与えるのがキャンプリーターの役割である。プログラムにない活動の時間にも子どもたちを褒めることや諭すことで、そのような機会はあるが、意図的に作り出すためには、やはり活動後に振り返りの時間を設けることが最も効果的である。 <文責:おたむ(キャンプリーター)>

学年ごとの傾向「MLGsに関する内容」

3つの表を見比べたとき、学年=1(小学4年生)と学年=2(小学5年生)の数値に大きな境目が見られ、学年=2から学年=3(小学6年生)にかけても、学年が上昇するにつれて数値の良化傾向にあることが読み取れる。このような値になった一つの要因として、キャンプでのプログラム内容と小学校での既習内容の関係が挙げられる。

キャンプで重視したMLGsの項目と、小学校学習指導要領内の学年と単元名を対比して述べると、項目3「多様な生物を守ろう」は、小学4年生理科での「季節と生物」が関連している。この項目は小学4年生から値が良い結果となっている。その一方で、4「水辺も湖底も美しく」は、小学5年生理科での「流れる水の働き」。5「恵み豊かな水源の森を守ろう」は小学5年生社会での「我が国の国土の自然環境と国民生活との関連」。6「地元も流域も学びの場に」の結果が良いのは、小学4年生からの総合的な学習の時間や社会の副読本において、びわ湖についての知識があつたからということが考えられる。

結論として、小学4年生後半や5年生で行う理科や社会、総合的な学習の時間などの単元において、小学校で知識の下積み がされていたため、学年が上がるにつれて数値が伸びていると言える。これらを踏まえると、行ったプログラムは小学4年生にとって、抽象的な内容であったために自分事として捉えられていなかった可能性がある。具体的な対策として、身の回りでのような場所で使われているか、どのような場面で活用できるのかを考える活動が効果的である。

さらに、直接的な体験の後に振り返る時間も重要である。カヌー体験後には、指導職員による1時間ほどの振り返りが行われていたが、小学4年生および5年生の数値で伸びていない項目が見られる。この原因は振り返りそのものではなく、その前後のプログラムとのつながりに課題があつたと考えられる。具体的には、ヨシ笛づくりやカヌー体験の実施前に、びわ湖について子どもたちがどのような印象を持っているかを話し合う場を設けたり、体験後、もう一つ琵琶湖に関する体験的な活動をプログラムに取り入れたりすることで改善が見込まれる。そうすることで、体験前後で琵琶湖に対する印象の変化を実感する機会が増える。さらに、オーパルで学んだことを復習しつつ、新たな体験と結びつけることで、びわ湖や自然環境についての学びや自分の考えをより深めることが可能となる。 <文責:おたむ(キャンプリーター)>

令和6年度「希望が丘夏休みわんぱくキャンプ」保護者アンケート(事前)

「希望が丘夏休みわんぱくキャンプ」にご参加いただき誠にありがとうございました。
今後の参考にさせていただきますのでご協力をお願いいたします。

※該当する箇所に○印をご記入ください

1 この事業は、何でお知りになりましたか？

- ①学校から配付された案内「イベントガイド」 ②しがこども体験学校
③希望が丘文化公園ホームページ ④その他 ()

2 参加させようと思われた理由は何ですか？ (1番大きな理由を選んでください)

- ①子供が行きたいといったので ②親が行かせたいと思ったから
③その他 ()

3 今回のキャンプで期待されたことは何ですか (複数回答可)

- | | |
|---------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 自然の中の活動や体験 | <input type="checkbox"/> キャンプの知識を身につける |
| <input type="checkbox"/> 保護者から離れての生活 | <input type="checkbox"/> 楽しい思い出づくり |
| <input type="checkbox"/> 慣れない環境で耐え抜く力 | <input type="checkbox"/> 新しい仲間や友達をつくること |
| <input type="checkbox"/> SDGsへの取り組み | <input type="checkbox"/> 集団生活での協力やルールを尊重すること |

4 お子様はこれまでにキャンプ経験がございましたか？

- ある ない



※あると答えられた方にお聞きします。それはどのようなキャンプですか (複数回答可)

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 希望が丘文化公園主催のキャンプ | <input type="checkbox"/> 地元市町主催のキャンプ |
| <input type="checkbox"/> 地区、子ども会主催のキャンプ | <input type="checkbox"/> スポーツ少年団・クラブ主催のキャンプ |
| <input type="checkbox"/> ボーイスカウト、ガールスカウト主催のキャンプ | |
| <input type="checkbox"/> 家族・小グループで行うキャンプ | |
| <input type="checkbox"/> その他 () | |

5 「わんぱくキャンプ」への参加にあたり、重視したことは何ですか？ (1つ選んでください)

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 日数 (1日+6泊7日) | <input type="checkbox"/> 時期 (他の行事などとの比較で) |
| <input type="checkbox"/> 実施場所 (自宅からの距離や安全性を含む) | <input type="checkbox"/> プログラムの内容や程度 |
| <input type="checkbox"/> 主催者や管理体制 | <input type="checkbox"/> キャンプリーダーの有無 |
| <input type="checkbox"/> 参加費 | |
| <input type="checkbox"/> その他 () | |

6 「わんぱくキャンプ」に期待されることがあればご記入ください

7 今回のキャンプに対するご意見・ご感想・問題点などがあればご記入ください

ご協力ありがとうございました。
滋賀県希望が丘文化公園

『令和6年度 文部科学省委託「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」
 教育的効果の高い長期自然体験活動の構築・普及事業』 希望が丘夏休みわんぱくキャンプ

保護者アンケート結果 (事前)

2024/7/28締切
 まとめ集計
 2024/8/2

- 対象：参加児童数 59名 56家族 (件)
- 回収数：56件 (回収率 100%)

Q1 この事業は、何でお知りになりましたか？

①学校から配布された案内「イベントガイド」	45
②しがこども体験学校	4
③希望が丘文化公園ホームページ	11
④その他	7

Q2 参加させようと思われた理由は何ですか？

①子供が行きたいといったので	47
②親が行かせたいと思ったから	7
③その他	2

Q3 今回のキャンプで期待されたことは何ですか？

自然の中の活動や体験	43
保護者から離れての生活	32
慣れない環境で耐え抜く力	41
SDGsへの取り組み	18
キャンプの知識を身につける	18
楽しい思い出づくり	38
新しい仲間や友達をつくること	40
集団生活でのルール	38

Q4 お子様はこれまでにキャンプの経験がございましたか？

ある	49
ない	7

〔あると答えた方、それはどのようなキャンプですか？〕

希望が丘文化公園主催のキャンプ	39
地区、子ども会主催のキャンプ	4
ボーイスカウト、ガールスカウト主催のキャンプ	0
家族・小グループで行うキャンプ	16
地元市町主催のキャンプ	5
スポーツ少年団・クラブ主催のキャンプ	0
その他	7

Q5 「わんぱくキャンプ」へ参加にあたり、重視したことは何ですか？

日数（1日+6泊7日）	11
実施場所	25
主催者や管理体制	18
参加費	19
時期（他の行事などとの比較で）	12
プログラムの内容や程度	29
キャンプリーダーの有無	10
その他	2

Q 6

キャンプを楽しんでほしい、色々な経験をして少しでも自分に自信につながってほしい
集団生活をする中で、いろいろなことを学んでほしい
普段体験できない実体験をたくさんできる、キャンプリーダーさんや仲間と楽しく過ごすことができる、生き抜く力のもとになるしなやかさをつける、小学校最後の夏によい思い出をつくる
友だちづくり、人づきあい、自然にふれる、キャンプファイヤー
毎年、毎年のバージョンアップ
集団生活、協調性、自主性、自立心がこの体験を通して成長していければと期待します
マイペースな性格なので、「まわりを見て行動」「自分で計画して行動」できる力が育てば嬉しいです。楽しいこと、やりたいことに集中すると、人の声がきこえなくなる事があるので、「今は何をやる時間なのか」自分で考えてできるように「言われなくてもできる子」に成長してほしいです。
自分は自分、精神的にも強い人間の一人として成長してほしい、自分の意見をはっきりと伝え、そして相手の話も最後まで聞き理解することの大切さを身につけてほしい、ゲームやユーチューブ楽しいけど離れてそれを越える愉しさを見つけてみんなで成功をさせて戻ってきてほしいです
親と6泊7日はなれたことのない生活の中で、友だちと協力をしたり、知らない知識をたくさん身につけてきてほしいなあと思います（災害や非常事態の時の対応など、自然のものできるなど）
たくさんの人と関わって協力し合って、乗りこえてほしいです！自然の素晴らしさも、知ってほしい!!
苦手なもの（虫、音、食べ物）の克服
とにかく楽しい思い出を作る貴重な体験を出来る事を期待しています
親から離れ、不安に思うことがあると思いますが、自らが参加したいと申し込みをしたキャンプです、不安に思ったり助けが必要になったときに困っていることを自分の口から伝える、困っている人に寄り添える、みんなと助け合うことができるようになってほしいと思っています、わんぱくキャンプ初年（4年生）で今まで以上にたくましい、自分を大切にする、6泊7日を体験して自身をもてるようになってほしいです
いっぱいいろいろな普段はできない経験をして成長してもらいたいです、いつもyoutubeなどを見ることが多いので、実体験を通してのりこえてもらいたいです、また新しい人間関係をうまくきづけたらいいと思います
初めての6泊7日で、仲間やリーダーとさまざまな体験をして、たくましくなってくれたらと思います、家での生活とは違って、困る事もたくさんあると思いますが、教えてもらったり、助けてほしいと伝えられる力、そして自分ができる事、知っている事は率先してする力、協力する力など身につけてくれたらうれしいです
長期のキャンプは初めての参加ですが、自分のことを自分で責任を持てるよう少しでも成長した姿で帰ってきてくれたら嬉しいです
自主性が身につくといいなと思います、新しい仲間と楽しい時間をすごして欲しいです
長期間、子供達でキャンプや宿泊をする中で、喧嘩したり、楽しかったりいろいろな感情を経験してほしいです
本人希望なので楽しんできてくれることが一番ですが、ふだん親任せなところが多いので、いろいろなことを自分でする経験を通して自信を盛ったり、挑戦する気持ちを持てるようになればと思います
自然の中で友達と楽しく元気に過ごしてほしい、嫌なこともチャレンジして積極的に行動してほしい
集団生活での協力やルールを守ること、他人への気遣いを学んでもらいたい、自然や日常と異なる環境の中で、我慢強さを身につけて欲しい、楽しい思い出をつくって欲しい
キャンプを経て、自分自身に自信をもって欲しい、自己肯定感が高まってくれば尚嬉しいです
今まで3泊4日のお泊りのイベントにはいったことがあったのですが、今回は6泊7日と倍程の日程でのチャレンジで、自分で考え仲間とともにキャンプリーダーさんに助けてもらいながらたくましくすごしてほしいです
自分で何でもチャッチャッとやりたがるので、待つこと、ゆずること、人の意見を聞くことができたらいいなと思います、小学生の時の体験はとても思い出に残るかなと思うので自然の中で不便な生活の中で仲間とたのしくすごしてほしいです
1週間という長い期間の中で自分の得意、不得意を見つけつつ、自分の力で活動する「力」を身につけてほしいと考えております、何事にもポジティブに向き合ってください
家庭ではできない体験をすること、自分の考えや想いを伝えながら仲間と協力し合うこと

普段は経験できない外での活動をたくさんしてきてほしい、家族からお家からも離れて自分に自信をつけてほしい、6泊7日も離れることは生まれてから初めてなのでたくましくなって帰ってくる姿を期待しています
積極的に自分の意見が言え、行動できるようになる
自分で考えて行動できるようとなる、協調性、積極性
親と離れた環境で少しでも成長してほしい
キャンプが6泊7日ということで長すぎると思い最初全く考えてはいませんでした、こどもが学校で行くと決めた友達から声をかけられ、行きたいと行ってきたので参加を考えることになりました、費用が安いと思えたのも決め手でした、毎年夏休みは家族で車での旅行をしていましたが兄2人とも中、高生となり家族で出掛けることも厳しくなってきた頃であり、このキャンプでは普段の生活の中では絶対味わえないよい経験になると思います
今回のキャンプで普段身につけることができない協調性や自立性を少しでも学び、また、初対面のメンバーと打ち解けるコミュニケーション力を養ってほしいです
コミュニケーションをとることが苦手な自分の子がリーダーたちの力をおかりして、少しでも笑顔で7日間過ごしてくれたらと思います、何卒、よろしく願いいたします
長期間家を離れるので自分のことを自分でする力が試されるし、キャンプで発揮できることで自信がつくといいなと思います、環境意識や自然認識力の向上
日常(学校)とは違う体験を通して、お膳立てされた状態でなく、耐え抜く力、自ら動く事、協力、仲間意識やSDGsの本も読んだので、体感して「足るを知る」を得てほしい、今後の環境へ、周囲の人への意識、感識、恩恵などを感じてほしい、周りへの配慮
今まで最長で2泊3日までしか経験したことがないので1週間を友達やキャンプリーダーさん達と乗り切って心も体も強くなってほしい
自立心の向上、子どもたち自身で考えて行動する力を身につけてほしい、夏の思い出として一生心に残るものになってほしい
たくさんの人と関わって協力し合って、乗り越えてほしいです！自然の素晴らしさも、知ってほしい!! 自然を感じ、友だちと協力しあって最高の思い出をつくってほしい
決められた手順は、きっちり守り、仲間と協力し合って活動できることを望みます
今まで親と離れてお泊り保育すら経験していなかったが、親としてはいきなりの長期キャンプで不安だらけですが本人の希望で参加を決めました、学校の準備でさえ、満足にできない状態ですが、この経験を経て自分のことは自分で考え行動するなど少し意識が変わることを期待しています、またこわがりなので今まで経験したことのないことにチャレンジし、成功体験を増やし、自信につなげてもらいたいです、あとは友達とおもいきり楽しんでもらいたいです
自ら進んでチャレンジしてもらいたい
通っている小学校が1クラスなので、新しい仲間と出会っていろいろな経験をして仲良くなってほしい、生きる力を身につけてほしい

Q7

7日間生き抜いてほしい
よろしくお願いします
キャンプリーダーさんがいてくれるのが本当に良いと思っています!! いつもありがとうございます
何かしら本人が感じ成長してくれたら嬉しいです
初めての参加で、本人は「楽しそう」と言っていますが、母はいろんな行動について行けるか少し心配です。10人の子供にキャンプリーダーさん3人ついて下さるので安心はしました。行く前にも何かあればキャンプリーダーさんに相談するように言いますので7泊8日もよろしくお願いします。
説明会の時に40回と続けてこられたとお聞きし、安心して参加させることができます、熱心さも伝わってきます、とにかくたくさん自然を相手に思いっきり楽しんできてほしいと願います、よろしくお願いします
6泊7日と長いキャンプなのに、費用が安くてすごく助かるなと思いました、なかなか行きたいと言われても行かせてあげられない金額だったりもするので、感謝の気持ちでいっぱいです
園長の想いが伝わってきてますます楽しみです!!
長期間のキャンプになりますので、安全第一でお願いしたいです

ちびっこキャンプからお世話になっています、4年生からわんぱくキャンプに参加するのを楽しみにしていました、日程がちびっことは違い6泊7日と長くなるので、本人も少し不安なところがあるようですが、希望が丘のスタッフのみなさん、キャンプリーダーのみなさん、キャンプに参加する仲間たちと無事に元気に過ごしてくれることを願っています、暑い中での活動になります、楽しい思い出がたくさんできることを期待しています、お世話になります、よろしくお願いたします
すごく丁寧に対応してもらって安心です、キャンプリーダーさんもすごく楽しく素敵な人ばかりで子供も嬉しそうでした
内容なども詳しく教えていただいているので、心配なこともなく、安心して参加できそうです、よろしくお願いたします
子どもがこのキャンプを大変楽しみにしておりました、1日楽しく過ごさせていただき、ありがとうございます
1週間という長い期間子どもたちのお世話をさせていただけること、ありがとうございます、とても楽しみにしていました、よろしくお願いたします
長期間のキャンプ体験はなかなかできないのでありがたいです、リーダーの方々も大変だと思います、よろしくお願いたします
費用は安くありがたいですが、持ち物が多いので（服）買う必要があるのは大変かなと思いました、説明会からキャンプ当日まであまり日がないので（平日は働いているので）、買い物に行く余裕があまりなく、持ち物だけでも1カ月前くらいにわかるとありがたいです
色々な活動が含まれていて楽しみです（山、琵琶湖、テント泊、調理、キャンプファイヤー、6泊7日、野外活動の経験は、災害時等にも活かされると思うので、しっかり学習して欲しいと思います（親自身が知識が乏しく教えられていない）
スタッフ、職員のみなさま、長期間大変お世話になります、子どもがたくましく育つ大変貴重な機会と感じております、子どもにとっても楽しい思い出となるよう願っております
小学生の時に家から離れて6泊するという事は本当にチャレンジだなと思いました
とても細かく計画をたててくれていることがわかります、6泊は初めての経験なので体力がもつかが心配です、ズボンもせんとくしてくれたらよかったなと思います
職員の皆様、キャンプリーダーの皆様には多大な労力をおかけいたしますが、よろしくお願いたします
災害級の暑さと言われておりますので、熱中症や食中毒など心配していましたが、本日、説明を聞いていろいろ考えてくださっているとわかり安心いたしました
子供からキャンプに参加したいと応募させていただきましたがいきなり6泊7日、そして募集の時点では詳しいスケジュール等分からなかったのが最初は参加させて大丈夫なのか正直不安、とまどいがありました、ただ前回キッズキャンプに参加していたため、キャンプリーダーの方や職員の方々によくしてもらったことがあったので今回参加を決めました、今回初めてだったとしたらもう少し安心材料が欲しいなと思いました、募ってから決めることもあるかと思うので全ては難しいことも分かりますが、子供本人はとても楽しみにしていたので久しぶりの6泊7日、みんな元気に終了できることを応援しています！
貴重な機会をご提供いただきありがとうございます
子供たち2人～3人に1人のリーダーさんがついて下さるという対応に今とても安心しております、本日のBBQも「どうしているだろうか」「迎えに行った時何か楽しかったことを言ってくれたらいいな」と思いながら待っています、1日かけてのアイスブレイクありがとうございます
外での活動が多いと思うので熱中症が心配です
書類やメールを推敲してほしい
長いキャンプなので、インスタやブログなどで様子がみれると嬉しいです
その日の様子を全体にざっくりその日のうちにメール等で知らせていただけると保護者側は大変安心すると感じております
説明会に際して健康観察カードを提出しましたが相談したい旨を記載していたにも関わらず、何も確認されなかったものでいつカードが確認されるのか、このまま預けて大丈夫か少し不安になりました、子供の健康が最優先として色々対策をとられているかと思いますがくれぐれも健康チェックのほどよろしくお願いたします
事前研修会に参加できなかったが、別日で日程を調節してくださりありがとうございます、体調不良や突発的な用事に対応してくださる体制強化を望みます
サブタイトルやあらすじが考えられていて、子どもも楽しみにしている。希望が丘であるので安心だし、参加費もとても安くありがたい

保護者アンケート結果 (事後)																																				
<p>9月17日(火)までに他のアンケートと共に記載、投函郵送願います 令和6年度「希望が丘夏休みわんぱくキャンプ」保護者アンケート</p> <p>「希望が丘夏休みわんぱくキャンプ」にご参加いただき誠にありがとうございました。 今後の参考にさせていただきますのでご協力をお願いいたします。 ※該当する箇所に○印をご記入ください</p> <p>1 今回のキャンプについて当てはまるところに○をつけてください</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;"></th> <th style="width: 10%; text-align: center;">大変良い</th> <th style="width: 10%; text-align: center;">良い</th> <th style="width: 10%; text-align: center;">悪い</th> <th style="width: 10%; text-align: center;">大変悪い</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①参加させてどうでしたか？</td> <td style="text-align: center;"> ----- </td> </tr> <tr> <td>②スタッフの印象はいかがでしたか？</td> <td style="text-align: center;"> ----- </td> </tr> <tr> <td>③案内文書（しおり等）の分かりやすさは？</td> <td style="text-align: center;"> ----- </td> </tr> <tr> <td>④プログラムの内容はいかがでしたか？</td> <td style="text-align: center;"> ----- </td> </tr> </tbody> </table> <p>2 今回のキャンプを通じて、あてはまる事柄に○をつけてください (複数回答可)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/> 我慢強くなった</td> <td><input type="checkbox"/> 自主性や協調性が育った</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 最後まで頑張るようになった</td> <td><input type="checkbox"/> たくましくなった</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 自信がついた</td> <td><input type="checkbox"/> お手伝いをするようになった</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> あいさつやお礼が言えるようになった</td> <td><input type="checkbox"/> 自然に関する意識の変化があった</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> その他 ()</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3 今回のキャンプに対するご意見・ご感想・問題点などがあればご記入ください</p> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">ご協力ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;">滋賀県希望が丘文化公園</p>		大変良い	良い	悪い	大変悪い	①参加させてどうでしたか？	-----	-----	-----	-----	②スタッフの印象はいかがでしたか？	-----	-----	-----	-----	③案内文書（しおり等）の分かりやすさは？	-----	-----	-----	-----	④プログラムの内容はいかがでしたか？	-----	-----	-----	-----	<input type="checkbox"/> 我慢強くなった	<input type="checkbox"/> 自主性や協調性が育った	<input type="checkbox"/> 最後まで頑張るようになった	<input type="checkbox"/> たくましくなった	<input type="checkbox"/> 自信がついた	<input type="checkbox"/> お手伝いをするようになった	<input type="checkbox"/> あいさつやお礼が言えるようになった	<input type="checkbox"/> 自然に関する意識の変化があった	<input type="checkbox"/> その他 ()		<p>2024/9/17締切 まとめ集計 2024/9/24</p>
	大変良い	良い	悪い	大変悪い																																
①参加させてどうでしたか？	-----	-----	-----	-----																																
②スタッフの印象はいかがでしたか？	-----	-----	-----	-----																																
③案内文書（しおり等）の分かりやすさは？	-----	-----	-----	-----																																
④プログラムの内容はいかがでしたか？	-----	-----	-----	-----																																
<input type="checkbox"/> 我慢強くなった	<input type="checkbox"/> 自主性や協調性が育った																																			
<input type="checkbox"/> 最後まで頑張るようになった	<input type="checkbox"/> たくましくなった																																			
<input type="checkbox"/> 自信がついた	<input type="checkbox"/> お手伝いをするようになった																																			
<input type="checkbox"/> あいさつやお礼が言えるようになった	<input type="checkbox"/> 自然に関する意識の変化があった																																			
<input type="checkbox"/> その他 ()																																				

■対 象：参加児童数 59名 56家族 (件)
 ■回収数：55件 (回収率 約98%)

1 今回の事業について当てはまるところに○をつけてください

	大変良い	良 好	悪 劣	大変悪い
①参加させてどうでしたか？	50	5	0	0
②スタッフの印象はいかがでしたか？	49	6	0	0
③案内文書の分かりやすさは？	25	28	1	1
④プログラムの内容はいかがでしたか？	42	13	0	0

2 今回のキャンプを通じて、あてはまる事柄に○をつけてください (複数回答可)

<input type="checkbox"/> 我慢強くなった	14
<input type="checkbox"/> 自主性や協調性が育った	21
<input type="checkbox"/> 最後まで頑張るようになった	15
<input type="checkbox"/> たくましくなった	36
<input type="checkbox"/> 自信がついた	36
<input type="checkbox"/> お手伝いをするようになった	21

<input type="checkbox"/> あいさつやお礼が言えるようになった	11
<input type="checkbox"/> 自然に関する意識の変化があった	12
<input type="checkbox"/> その他	8

その他内容

●大学に行ってキャンプリーダーになりたいと目標が言えるようになった	
●話しかけた事に反応を返すようになった	●早寝、早起きができるようになった
●仲間作りができるようになった	●料理の手際が良くなった
●自分以外の事もより良く考えられるようになった	
●発言ができる、意見、アイデア、先読みができるようになった	
●大きく変わらない	●意見をはっきり言えるようになった気がします

3 今回のキャンプに対するご意見・ご感想・問題点などがあればご記入ください

☆良かった点・親子の成長を感じた点

- 親元を離れてキャンプをした事で、たくましくなり、自主性がついた。
- 親元を離れて長いキャンプをした事で、自信に繋がっていてメンタル面での成長を感じる
- 一緒に生活した者同士の絆を閉会式を通じ感じ取り、感動し、本人の大きな宝物になると思った
→そんな仲間との同窓会的なイベントを企画頂ければと思います
- チームで助け合い、日々の目標に取り組んだという強い気持ちが刻み込まれている
- 手伝うと親も楽だけど、今後は親としても口出しせず、本人に任せる事も大切だと感じている
→親も子供の可能性を信じて日々の子育てを反省させられる機会となった
- キャンプリーダーの方々との話を通じ、リーダーの子供への向き合い方が理解出来、良かった
- 少人数の学校で6年間同じメンバーで過ごしていたので、他校の方とふれあえる大変良い機会でした
- 食育、環境意識も促して頂き、良い体験機会であった
- キャンドルセレモニーでは今まで味わった事の無い別れの辛さや成し遂げた先の感情などが溢れでた様で感情的にも豊かになって帰って来た様に感じる
→涙を流す事がステキに感じられた様です
- その他、キャンプリーダー、スタッフに対する感謝、お礼のメッセージを多く頂きました。

☆要望、改善してほしい点

- 中学生が参加できるキャンプの企画があれば良い
- 事前説明会では、過去の質問/回答資料があれば良かった
- テント設営のプログラムもあれば、なお良い
- 熱中症疑いの参加者が一旦帰宅し、再参加されていた様ですが、感染症対策の観点から、発熱の参加者の再参加は無い方が良い
- 炊飯時等の焚火の煙で目を傷めたらしく、視力が低下し、眼鏡データーが3ランク低下となった
- テント泊が多く、虫刺されと思われる発疹などが見られてるので、室内での宿泊がもう少しあれば良い
- 歯磨きは1日1回だったという事が気になりました
- 特に大きな成長は感じられない
- 持ち物が多く、準備が大変だった。中日での荷物交換日の様なものがあれば良かった
- 三上山登山が長時間だったので疲れた様です

(代表的なご感想)

- 長期間でダイナミックなキャンプに参加させて頂き、スタッフの皆様、ありがとうございました。貴重な体験、何より一緒に生活をした物同士の絆、閉会式感動しました。全てにおいて本人の宝物となっています。
帰り道から、早速、沢山の話をお聞かせしてくれて「こんなに喋る子供かな？」と、そして自ら荷物を片付けるから驚きました。
しばらくは、キャンプ生活の事を振り返り、何となく寂しそうな表情でしたが、大切な仲間とまたいつか再会したいという感じでしょうか。それだけ、チームで助け合い、日々の目標に取り組んで来たぞという強い気持ちが、刻み込まれている様にも感じます。手伝うと自分も楽だけど、これからは、親として口出しせず、子供に任せて行こうと、向き合い方も考えさせられる時間となりました。

希望が丘夏休みわんぱくキャンプ「再会のつどい」 保護者アンケート (2024.12.28)

「再会のつどい」に参加されるにあたって、子どもさんの様子はいかがでした

- 非常に楽しみにしていました。案内が届いた時から、今日をととても待ち遠しく過ごしておりました。一週間を共に過ごした仲間、キャンプリーダーに会いたいという気持ちや思い出が、何かをやる上での原動力の一つになっていたと感じます。仲間、キャンプリーダーとやりとりした手紙は今も机の上にかざっており、大切な思い出のようです。
- とても楽しみにしていました。「再会のつどいがあるんだって〜」って言うのと「絶対いく！」と言って冬休みの楽しみな予定で待ち通しそうにしていました。でも、「久しぶりで少し緊張するー」とも言っていました。
- みんなに出会えることをすごく楽しみにしていました。待ちどうしくてたまらない様子でした。
- 今日の再会のつどいに行く友達やキャンプリーダーのみんなに会うのをすごく楽しみにしていました。
- とても楽しみにしていました。
- わんぱくキャンプで出会った友だちやリーダーに会いたいとずっと言っていたので、同窓会のような機会を準備していただきとても喜んでいました。
- よそよしい、少し恥ずかしい、ちょっと楽しみ、だいぶ忘れた、過ごした場所は覚えている
- 夏休みのわんぱくキャンプから少し時間がたち恥ずかしそうにしていたのですが、反面みんなで会えるのが楽しみなようでした。
- とても楽しみにしていたが緊張していた。
- とても楽しみにしておりました。メンバー、リーダーとの再会を楽しみにしているようです。
- 非常に楽しみにしていました。
- キャンプリーダーに会えて嬉しそう。楽しかった気持ちがまた引き出された。
- すごく楽しみにしていました。
- 久しぶりにお友達とリーダーに会えるのでとても楽しみにしていました。
- 久しぶりなのでちょっとドキドキするけど、楽しみと話しておりました。
- キャンプリーダーやお友達との再会を楽しみにしていました。アンケートのとき、リーダーへお手紙を書いてリーダーからのお返事をとても大切にしています。先日の里山楽校で、わんぱくに参加していたお友達と同じ班で、今日の再会のつどいで会う約束をしていました。
- わんぱくキャンプから帰ってすぐに、ルーから作るシチューを家で作る！と一緒に作りました。4ヶ月すぎてわんぱくキャンプの体験やキャンプリーダーさん、仲良くなったお友達と絵を描いたりしたことを思い出して、再会のつどいを楽しみにしていました。家族の入院や手術、後遺症がでて、様々なことでドタバタしていたため、子どもはほったらかしになっていて…今日連れてこられて本当に良かったです。
- 楽しみにしていてもっとはしゃぐかなと思っていたのですが、少し恥ずかしい感じでの対面でした。恥ずかしい感じも成長の一つかなと思いつつ見させてもらいました。参加できて、子ども親とも嬉しいです。
- ずっと前から楽しみにしていました。昨晚もウキウキそわそわしていました。仲良くなった友達やキャンプリーダーに会えるのが楽しみだったみたいです。
- 楽しみにしていました。久しぶりに友達やリーダーに会えるのでワクワクしていたようです。
- 絶対に参加する！と大変喜んでいました。
- 再会のつどいがあると知ってからとても楽しみにしていました。「〇〇くるかな」「〇〇と会えるかな」と、とても楽しみにしており話していました。
- リーダーに会えることも同じ班の子と再会できることもすごく楽しみにしていました。
- キャンプが終わってからも、お手紙のやり取りなどで「また会おうね」など書いていたのでまた会えるのが分かったときはとても嬉しそうでした。6泊7日の絆はとても固いなと思いました。
- とても楽しみにしていた。
- 当日までとても楽しみにしていた。
- 少し緊張していましたが楽しみにしていました。

- みなさんに会えるのをとても楽しみにしていました。
- 緊張していました。
- 絶対行く！と楽しみにしていました。
- 4か月ぶりに会うことに少し緊張し、また楽しみにしていました。
- わくわくした様子で前日から手紙などを用意してみんなに会える事を考えていました。子供にとって大切な時間をつくっていただきましてありがとうございます。
- 絶対に行く！と楽しみにしていました。キャンプで作った冊子など出して見ていました。キャンプ後にこのような企画があると思っていなかったのでもうれしく思います。
- 久しぶりなので、やや緊張ぎみでしたが、とても楽しみにしていました。
- キャンプリーダーや、仲良かったお友達と会える事をとても楽しみにしていた。
- 何日も前から楽しみにしていました。
- 久しぶりの再会ということで少し緊張した様子でした。
- 自分から積極的に参加したいと申し出があった。これまでは人間関係を避ける面が見られたが、以前と変わったと思いました。

6泊7日キャンプから4か月が経過しますが、参加前と現在とで成長を感じられますか

- はい、成長を感じることができています。まず、朝早く起きられるようになりました。登校前の朝の時間に、その日やらないといけないうちの一つでもやることを覚え、今も続けています。参加前は、寝るのも遅く、早く起きるということに意識することはなかったように思います。一週間のキャンプ生活は、仲間と過ごした大切な時間であったため、今日の再会のつどいに参加できなかったことが非常に残念です。再会させてあげたかったという思いでいっぱいです。
- いろいろな人がいるということ、他者を受け入れたり、理解したりその中で自分の思いも伝えたりすることを学んだと思います。アウトドアスキルや自分で工夫すればできることはいろいろあると実感してくれました。
- キャンプが楽しかったこと、自信がついたこと、挑戦することができるようになったと思います。
- 自分から進んでできることが増えたと思う。大きくなったらキャンプリーダーになりたいと決めているようです。
- いろいろ体験、経験させてもらいよかったけど家ではなかなかお手伝いが…。頼んだらしてくれるからそれでよしとしようか。
- 親が知らないことでも不意にわんぱくでやったからできるよと教えてくれたりして、色々なことに挑戦させてもらったんだなあと思いました。
- うーん…あまり感じられない。一人でどこでも行くようになったかな。
- 自分の意思を強く持てるようになったと思います。
- 怖がりがましになった。最終日まで過ごせたので、少し自信がついたように思います。
- 元々高かったコミュニケーション能力がさらに高く、積極的に新たな物事にチャレンジを続けています。
- 自主的に様々な物事に取り組むようになりました。
- いま冬休みですが、一日の行動を自分で考えてやっていってるように感じます。
- あまり感じられません。今日、もう一度大切なことを思い出すきっかけにしてほしいと思います。
- どんな子とでもすぐに友達になれるようになったと本人は言っていました。また、べたべた親に甘えることが減りました。
- 参加前よりもちょっとだけたくましくなったように思います。自信もついたようで生活の中で手伝ってくれることも増えたように思います。
- 希望が丘のキャンプ、里山など新しいことにチャレンジする、自分から声をかけて友達をつくる！と自分の口から言っていたので、成長したなと感じます。まだ不安な部分もあるようですがやってみたいと行動できるようになったと思う。
- 自分で食べたいお菓子をつくったり、おかずをつくってくれたり成長していると嬉しく思いました。手をかけられていない状況だったので、たくましくなってくれてすごいと思いました。
- 特に下の子どもにかかわる時に、声掛けや話をするようになり、面倒見がよくなりました。
- 自立心が養われたような気がします。キャンプから帰ってすぐは料理など進んでくれましたが、時間の経過とともに今では全然してくれなくなってしまいました。
- 手伝いや時間の管理ができるようになりました。お手伝いをたのんでも「はい」と言ってやってくれる

ようになりました。

- 家のお手伝いを少しだけ自分からするようになった気がします。また、今までは家にこもって遊んでいることが多かったのですが、外で友達と遊びに行くということが格段に増えました。人との交流を深められていると思います。
- 料理をしたいというようになりました。片付け整理も意欲的にできるようになりました。
- 人見知りがなくなったと言っていました。また、家で料理をする機会が増えました。
- 初めての友達とでも、上手にコミュニケーションがとれるようになった。自然になかで知恵を出し合っ
て生活する力がついた。
- お願いしたことを快くやってくれるようになった。
- 相手を思いやるようになったと思います。
- 6泊できたことに自信がついたようで、自分から参加することが増えました。
- 自分のことは自分でするようになりま
した。計画を立てて宿題や部屋の片づけをするようになり、自分で考えて行動することが増えました。
- 下の学年の子の面倒を見るようになった。料理の手伝いをする機会が増えました。
- 夕食の準備をしていると何か手伝いことある？と聞いてくれるようになりま
した。自分の意見（反抗も）
いえるようになり、たくましさを感じます。
- 自分から手伝いをする
ことが増えた気がします。
- 仲間との出会い、ふれあいを通して、いろいろな事を考え、感じてくれたと思
います。
- 物事や時間の見通しを立てて行動できるようになったことに成長を感じます。
- 料理に興味を持ち始めました。小学生用の料理本をみながらたくさん作っ
てくれるようになりま
した。本人も楽しいよう
です。
- 苦手だった食材を克服しようと頑張ったり、自分の食事を自ら用意したり、料理に興味を持ったよう
で
ご飯づくりをする機会が増
えた。
- ますますしっかりしてきて行動範囲も広くな
ってきま
した。家の手伝いもよくや
ってくれ
ます。
- いろいろな人たちと触れ合うことで、人間的に成長したと思
います。

希望が丘夏休みわんぱくキャンプに参加されて、保護者としていかがでしたか

- 親子共々とても有意義のあるものでした。期間中、子どもも今頃頑張っているだろうから、親も頑張
ろうと思
って行動でき
ましたし、帰りの車の中
で泣いて
いる子供
の姿から、
とても貴重
な体験を
したであ
ろうこと
は容易に
想像でき
ました。い
つもの学
校の友達
ではなく、
初めて会
う友達だ
からこそ、
まっさら
な気持ち
で接する
ことがで
きたので
しょうし、
何も飾ら
ない姿で
自然の中
で生活す
ることは
大きな大
切な体験
になった
ことだろ
うと思
います。
- 毎年参加していましたが、今年
は待ちに
待った6
泊7日
での開催
でおも
いっき
りわん
ぱくの
醍醐味
を感じ
てくれた
よう
です。6
年生と
いうこと
もあり、
リーダー
シップ
や低学
年を思
いや
る気持
ちも持
って
くれた
ことが
よか
った
です。
- 親から離れ、自分
たちで
行動し、
自分
たちの
世界も
でき、
自信が
ついて
他のこ
とも
でき
るよ
うに
な
った。
来年は
中学生
ですが、
中学生
でも
参加
でき
る
キャン
プが
でき
ると
嬉
しい
です。
- 知らない人と
友達に
なっ
て協
力し
てひ
とつ
のこ
とを
成し
遂
げ
るこ
と
が
でき
良
か
つ
た
と
思
い
ま
す。
来
年
も
必
ず
参
加
さ
せ
よ
う
と
思
い
ま
す。
- 初めての長期
キャン
プで
心配
しま
した
が元
気に
過
ご
せ
たく
ま
し
く
な
つ
た
よ
う
で
す。
- 来年も再来
年も
参加
した
い
と
言
っ
て
い
ま
す。
親も
安心
して
参
加
さ
せ
たい
と
思
う
の
で
ぜ
ひ
毎
年
し
て
ほ
しい
で
す。
- 今すぐという
よりは
もう
少
し
大
き
く
な
つ
て
か
ら
活
か
せ
る
と
思
い
ま
す。
- キャンプを通
じて
少
し
成
長
で
き
た
と
思
い
ま
す。
- 一週間という
長丁
場を
経験
し、
体力、
精神力
が共
に成
長を
感
じ
ま
し
た。
これ
か
ら
も
積
極
的
に
物
事
に
チャ
レンジ
する
よ
う
に
生
活
し
て
ほ
しい
と
思
っ
て
い
ま
す。
- 自立心、
自信、無
限のや
つてみ
ようの
力
がある
んだ
なあ
と思
わ
せて
いた
だ
き
ま
し
た。
仲間
を大
切に
力を
合
わ
せ
るこ
とも
学
び、
これ
か
ら
の
人
生
の
力
に
な
つ
た
と
思
い
ま
す。
キャン
プリー
ダー
に
な
り
たい
と
い
っ
て
い
る
の
で、
す
つ
と
続
い
て
い
く
こ
とも
楽
し
み
に
し
て
い
ま
す。
- はじめは嫌
がっ
て
い
た
キャン
プ
で
し
た
が、
かけ
が
え
の
ない
宝
物、
人
生
最
高
の
思
い
出
を
つ
く
れ
た
よ
う
で
と
ても
あ
り
が
た
く
思
っ
て
い
る。
- 行かせて
よ
か
つ
た
で
す。
帰
り
際、
お
別
れ
の
様
子
を
見
て
と
ても
良
い
経
験
を
し
た
の
だ
と
感
じ
ま
し
た。

- 長時間手厚く見ていただき大変感謝しております。家では得難い経験ができ協調性やチャレンジ精神を養うことができたと思います。
- 長いキャンプで体調面が心配でしたが、キャンプリーダーに教えてもらっていろいろな事ができるようになり自信にあふれた満面の笑みで再会でき親としてとてもうれしく思いました。
- 自分もわんぱくキャンプを5年6年と体験して、他県で林間学校の指導員をしたことを思い出し、スタッフの皆様に感謝します。
- 長い日数でのキャンプにチャレンジし、親として、どんな経験をしてくるのか、何が変わるのかとワクワクとドキドキでした。ひとりで7日間他の仲間と過ごしたという経験は自信につながって顔つきも変わって帰ってきたように感じました。参加することができてとてもよかったです。
- 参加させていただいて本当の良かったと思っています。すごくいい経験ができたし、できた友達と今もLINEでやりとりしているみたいです。下の兄弟もぜひ参加させたいです。
- とてもよかったです。自分たちで食事をつくったり山に登ったりしたことはとても大きなことだったようで今でも山が見えたら行っています。食事でも家で少し作れるようになりました。
- 日常ではなかなか体験できないようなことをたくさん経験できてよかったです。知らない友達と一緒に行動して集団行動することを通じて他人を思いやる気持ちを持つことを学んだと思います。非常に良い事業で来年もぜひ参加させたいです。
- 親と離れ貴重な体験ができたと思っています。たくさんの子供たちの健康や安全に気を付けて7日間見ていただいて感謝しています。
- 普段できないことがたくさん経験できてよかったです。成長も見られてよかったです。
- 自然の中で過ごす体験はなかなかできないので貴重な経験をさせてもらいありがとうございました。
- また次回もいきたく！と思えるような楽しい体験だったと行かせて良かったと思えました。行かせる前は心配な気持ちもあったので。
- 最初は長い期間親と離れることに不安があったようですが、参加して「楽しかった！た参加したい！」と帰ってきたとき、経験させて良かったと思えました。来年もぜひ参加させたい。
- 楽しい思い出ができ成長できたので、また来年も参加させたいです。自分に自信がついたことが一番の成果だと思えました。
- 長期間のキャンプで少し心配していましたが、とても楽しく過ごせたようです。小学生最後の夏休みに良い経験ができたようです。
- 外で体験、生活をして成長したと思います。
- 楽しかった、来年も絶対行く！と言っているのがよかったです。一週間は長いかと心配でしたが本人は何ともなく楽しめていて成長を感じました。
- 不安と期待があり心配が勝っていたのですが、おわって話を聞くと考え方が深くなっていたと思います。
- 親としてできないことや感じてやれることなど、子どもたちだけでの実になる時間をつくっていただきありがとうございました。
- 今日、動画を見させていただき子供が話してくれた以上にいろいろな体験をしていたのだと知り驚きと、それをやり切ったのだと改めて感動しました。
- 自然の中で生きぬく貴重な体験をさせていただきました。本人にとっても初めてのことが多かったのですが、リーダーに教えてもらってみんなと協力してとても楽しかったようです。
- 子どもが持っていた能力に気づき、なにより楽しかった！と帰ってきてくれたので、ただただ参加させてよかったです。
- 送り出す側としては心配と不安もたくさんでしたが、昨年の2泊3日を経験し、本人の強い希望を信じて参加させました。たくさんいろんなことを体験して大きく成長して帰ってきたので参加させて良かった。
- 一週間という長い期間のお別れで心配しましたがたくましく完走してくれてよかったです。人間関係のところでも少し衝突もあったようですがそれも含めてよい経験をさせてもらった。
- 貴重な経験をさせていただきありがとうございました。



令和6年度文部科学省委託事業「希望が丘夏休みわんぱくキャンプ」実施後評価

びわこ成蹊スポーツ大学 副学長 中野 友博

長期キャンプの効果測定について、今回は「生きる力 (IKR)」と「マザーレイクゴールズ (MLGs)」の2つの指標尺度を用いた。調査対象は、参加児童59名 (小学4年生9名、小学5年生19名、小学6年生26名：男子23名、女子31名) で、アンケート分析は54名となっている。(回収率91.5%)

調査時期は、事前説明会・デイキャンプが実施された7月28日を事前調査、キャンプ終了後約1ヶ月後の9月24日が事後調査となる。指導スタッフ34名 (ディレクター・本部7名、キャンプリーター27名) である。参加児童1名に対するスタッフの比率は、1.7名となっている。

■アンケート結果について

IKRについて、全体得点は、事前125.2 (SD: 20.4)、事後135.8 (SD: 22.1) となっており有意に向上していた。また、下位因子の心理的社会的能力、徳育的能力、身体的能力についても事前事後で有意に向上した。

以上のことから「生きる力」について向上したことが明らかになった。調査期間の2ヶ月には、「デイキャンプ」「6泊7日長期キャンプ」があり、キャンプ終了後1ヶ月が含まれている。キャンプ後に参加者は各自様々な体験をしていると思われるが、キャンプ期間中のキャンプ実施内容やキャンプリーターの参加者の観察から「長期キャンプ」の影響が大きかったのではないかと推察できる。

次に、各学年のIKR得点の変化を見てみると、小学4年・5年生では、全体得点並びに下位因子得点に有意な向上は見られなかったが、小学6年生では全体得点・下位因子得点が有意に向上していた。これは今までのキャンプ研究の多くでは、キャンプの直前と直後の効果は向上するが、その後1ヶ月後にはそのまま維持されることもあるが、多くのキャンプでその効果が維持されないことがみられている。今回の長期キャンプでは、キャンプ直後にはどの学年の参加者もIKR得点は向上したが、小学4年生・5年生について1ヶ月後の調査となったため、得点の向上が見られなかったのではないかとと思われる。6年生についてはキャンプの効果が1ヶ月後まで維持されたために、事後調査の得点が向上したと言える。

MLGsについて、全体得点は、事前134.7 (SD: 19.0)、事後152.9 (SD: 13.6) となっており有意に向上していた。

■キャンプの効果について

今回のキャンプの目的は「参加者自身が自分と向き合い、まわりを見つめ、チームの一員として3つの項目の目的とする」である。キャンプ全体の目標、毎日の目標、各アクティビティの目標が、物語のストーリーを重視しながら様々なアクティビティを準備し、それをプログラムデザインされている。参加者にとって各自の目標がより具体的になり、自分ごとにできる目標設定が可能となっていた。その上に、指導組織として学生キャンプリーターが27名と多く、班担当は参加者10名に対して男性・女性のキャンプリーター3名が担当し、その上部組織としてキャンプサイトリーダー・全体チーフが配置されている。参加児童に年齢の近いスタッフが、組織的に数多く配置されているのが今回の長期キャンプの特徴であり、そのことがキャンプでの学びにつながっている。

キャンプ期間中の学びについて、キャンプリーターがキャンプ中の参加者を観察していたデータからも伺える。参加者がどのようにアクティビティを実施していたのか、課題をどのように発見し、解決策を模索し、それを解決していたのか。また、そのプロセスが個人で行ったのか、グループで解決できたのかを詳細に記録されている。

以上から、今回の長期キャンプでは、自然の中での生活や体験を通して「自分で考えて行動する」「仲間と協力して物事を解決する」機会が十分に確保できた結果、「生きる力」が向上したのではないかと評価できる。

令和6年度文部科学省委託事業「希望が丘夏休みわんぱくキャンプ」実施後評価

滋賀県キャンプ協会 副会長 溝江 透

1. 体験活動を通じた児童の変容

日本キャンプ協会ではキャンプの意義を「体験」という視点から次の4つにまとめている。

「自然体験」：自然に親しみ理解を深める機会

「社会体験」：人と人との関わり方を体験的に学ぶ機会

「生活体験」：生活を体験的に学ぶ機会

「チャレンジ体験」：課題を克服する機会

現在の子ども達は生活様式や子どもを取り巻く環境の変化等により「体験」が不足していると言われていいる。今回実施された「希望が丘夏休みわんぱくキャンプ」においては、7日間の長期キャンプの中に、先に挙げたような様々な体験活動を意図的に組み入れたことにより、以下の成果が見られた。

①非認知能力（生きる力）の高まり

非認知能力（文部科学省では「生きる力」）については、参加児童の事業実施前と実施後のIKR調査による評価において、その向上に優位さが見られる結果となっている。保護者の調査結果においても同じくその向上に優位さが見られる結果となった。

②自然や環境への理解（MLGs）の深まり

MLGsについても、参加児童のIKR調査による評価において、その向上に優位さが見られる結果となった。保護者の調査結果においても同じくその向上に優位さが見られる結果となった。

このように、子ども達に様々な体験を意図的に仕組むことにより、体験後に大きな変容が見られたことは大変すばらしく、本キャンプの目的を達成できていると思う。

2. リーダーや保護者の変容

今回の評価の目的は、参加児童の変容についてであったため、数字には現れてきていないが、リーダーの所見や保護者アンケートの記述欄から、希望が丘のリーダーや保護者の変容も著しいと感じた。

IKRの各項目における希望が丘キャンプリーダーからの所見からは、そもそも自分も子どもの頃にこのキャンプに参加して楽しかった経験があったことを次の世代に伝えたいという思いや、各項目の分析からは、リーダーの接し方や子どもの成長への思いなどが伝わってくる。このキャンプに参加して、達成感を感じると共にリーダー自身も大きく成長しているのではないかと感じる。

保護者のアンケートの所見からは、子どもの成長を喜ぶと共に、子どもと離れて生活する中で、親である自分を見つめるきっかけとなったり、子どもの自立に必要なことを学んだりして、親自身も成長する場となったと感じた。

このように、本キャンプは、参加者自身の変容はもとより、直接子ども達と接した希望が丘リーダーや、そういった場へ子どもを送り込んだ保護者も大きな変容を見せていることも成果の一つと考える。

令和6年度文部科学省委託事業「希望が丘夏休みわんぱくキャンプ」実施後評価

滋賀県シェアリングネイチャー協会 理事長 辻田 良雄

この事業を実施するに当たって、滋賀県立希望が丘文化公園が持つ強みとする自然環境を活かした野外体験活動を通して実施されたことは的を得た企画だと考えられる。

予想される教育効果を人の心や社会性に関係する力の向上、生きる力として、知識及び技能、思考力、判断力、表現力、学びに向かう力、人間性、また、非認知能力の向上として、相手の気持ちを読み取る力、自分の気持ちを表現する力を挙げたことなどは、具体的目標としてわかりやすく、取り組みやすかったと思われる。

また、琵琶湖SDGsである「マザーレイクスゴールズMLGs」を取り上げ、計画実践したことは今社会的問題となっている自然環境問題に深く考えるきっかけを与えたとともに、自然環境問題を解決していこうという力を育てる取り組みであったといえる。

まず、使われなくなったシートを利用して団体の旗を作ったのはこれからのキャンプが何を目的とした活動であるかということを考えるきっかけを作り、また、間伐体験を通して切り出した木材を利用して名札をつくったことは間伐の意味を学び、森の役割を考えることができた。健全な森は地球を守っていくうえで大きな意味をもつという地球環境を考えるうえで重要な作業であることを学んだ。知識だけでなくどのように判断し行動して考えていくかということをも身につけることができた。

小ハイキングは、単に歩くだけでなく、感覚を通して自然を感じ取ることの重要性を学ぶとともに、参加者の感性をよみがえらせ、これからの自然体験活動に深みを持たせることができたといえる。人にとって何が必要なかを考えるきっかけを与えた。

オーパルでの活動、カヌーやドラゴンボートやヨシを使って紙を作る学習では、琵琶湖という自然と向き合うときに琵琶湖の持つ役割が人にとっていかに重要であるかを体得できた。また、周りの人と協力し

てこそ物事をなしとげていくことの重要性を体得した。

丸鶏を解体した体験はいのちを学ぶとともに、私たちが自然の一部だということを学ぶことができたと考えられる。この体験は今回の体験活動の集大成とも言える活動だと考えられ、日頃何気なく食べている食物は、実は、実際に生きていた動物であり植物であることを強烈に実体験として学び、人としてどう生きていくかを深く学べたといえる。

また、活動終了後の評価をしっかりと、詳細に確認されている。例えば、キャンプリーダーの言葉で、「七日間を通して活動の6割が調理に関するものであったために、それ以外で挑戦する機会が少なかった。」また、積極性がうまく引っ張り出されなかったことにおいて、「キャンプリーダーから子どもたちへ次々と活動を与えることが多かったことが原因の一つである。」といった、マイナスのポイントにおいてもしっかりと評価していることは、この事業が次につなげられる活動になったと、大いに評価できることです。

令和6年度文部科学省委託事業「希望が丘夏休みわんぱくキャンプ」実施後評価

株式会社マックアース 奥琵琶湖マキノパークホテル&セミナーハウス
ホテル事業マネージャー 野田 紗也夏

はじめに、今回の「長期自然体験活動」は教育的効果があったと考える。理由を2点挙げる。

1. 「再会のつどい」を楽しみにされるお子さまが多くおられることを保護者アンケートより多く見られたため。

班の仲間やキャンプリーダーに会えることを楽しみにするということは、子どもたちの中でわんぱくキャンプがプラスになっていることが分かる。きっと不安なことも精神的・体力的にしんどいと感じることもあったであろうが、それに勝る経験や人間関係の構築があったことが分かる。これは、人の心や社会性に関する力の向上に繋がっていると言えるのではないだろうか。

2. 宿泊日数、プログラムの内容から「生きる力」を身につけるための3つの柱は養われたと考えるため。

調査の結果としては、大きく成果が見られたと言えないのかもしれないが、子どもたちの中で今回経験したことが自分のベースになっている子もいれば、元からあったものに積み重なった子もいるのではないだろうか。それぞれに持っているものや生活環境や経験が異なるので、そもそも分かりやすく結果に出るということは簡単には起こらないのではないかと考える。

だが今回、キャンプや調査結果を通しキャンプリーダーたちが気づいた点・目の当たりにした点というのは、大きな成果であると思うし、キャンプリーダーにとっても教育的効果があったのではないだろうか。「もっとこうすれば身につけられたかもしれない、気づいてくれたかもしれない」と振り返り、考えることができていくし、また次のキャンプに反映させていくことで、自らの力となり、誰かの力を引き出すきっかけになるであろう。

そもそも、今もなお「わんぱくキャンプ」が続くのは、キャンプリーダー・参加者・そのご家族・職員等、関わる全ての人たちが感じた、人と人とが自然の中で作り出すあたたかいものが受け継がれてきた結果だと考える。これもまた教育的効果があったと言えるのではないだろうか。

今後も定期的にキャンプ参加者が集まる機会やキャンプをする機会を設けて、長期的に「長期自然体活動」がもたらす効果について分析していくべきだと感じた。

令和6年度文部科学省委託事業「希望が丘夏休みわんぱくキャンプ」実施後評価

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟 評議員/日本ボーイスカウト滋賀連盟 副連盟長
ボーイスカウト甲賀第1団 団委員長/甲賀市青少年自然体験活動推進委員会 委員長
吉久 義則

本キャンプについては、キャンプリーダーに対する事前の技術指導（ロープワーク）に関わらせていただいたので、その視点から評価させていただきます。

キャンピングにおける「ロープワーク」は、火起こしや刃物の使い方などと並んで、基本的なキャンプスキルと考えられてきました。現代社会の子どもたちのキャンプにおいても果たしてそうなのかはしっかりと検証する必要があるとは思いますが、実施結果資料等を拝見し、まだまだキャンププログラムの要素として活用できると感じたところです。

期待される教育効果を得るには、参加者である子どもたちが主体的に考え、仲間と協力してキャンプ生活を楽しむ環境が必要ですが、そのためには具体的かつ刺激的なアクティビティが不可欠です。普段の生活ではなかなか体験できない焚き火や料理や工作などを通じて、達成感や協調性などを感じてもらいたいところです。本キャンプでは、これらを6泊7日のキャンププログラムの中にうまく取り入れられ、一定の成果を上げられていると感じました。

私は技能伝達のお手伝いをさせていただいたのですが、その際にもキャンプリーダーはその要素（ロープワーク等）を「どうしたら楽しいプログラムとして展開できるだろうか？」と常に考え、議論しておられました。時にはプログラムの目標や教育的効果にまで思いをめぐらしておられる感じがして、大変頼もしく思ったものです。

私の技術指導は、その活用アクティビティのヒントの提供も含めて、「スタッフ＝大人」に対するものでしたので、伝達方法の工夫はほとんどなかったのですが、子どもたちへの伝達についてはいろいろな工夫が必要です。今考えてみると、そこをキャンプリーダーと一緒に考えられたら、もっと楽しく、効果の上がるプログラムを作ることのお役に立てたのかなと反省しています。

本キャンプでは、様々な技能やアクティビティを、単発で提供するのではなく、意図して関連させておられます。うまくいかない部分もあったようですが、そこをうまく乗り越えられたのは、キャンプリーダーたちの魅力が大きかったのではないのでしょうか。

ロープワークを含めた様々なキャンプ技能については、たとえ一週間という期間でも、時間が不足したり、モチベーションが継続しなかったり、習得にばらつきがあったりということが考えられます。その対策として、目標や達成度の「見える化」として、キャンプ技能のチャレンジノートみたいなもの（資料にないのでわかりませんが、あったのかな？）も試せないかなと考えているところです。

キャンプそのものの成功も大事なことです。キャンプリーダーたちが、それを単なる成功とせず、指標と自分たちの感性でしっかりと評価されていることが、私が最も高い評価をしたいと思っているところです。



令和6年度 文部科学省委託「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」
教育的効果の高い長期自然体験活動の構築・普及事業

希望が丘夏休みわんぱくキャンプの実施結果の普及

令和7年2月発行

編集発行 公益財団法人滋賀県希望が丘文化公園
〒520-2551 滋賀県蒲生郡竜王町薬師1178
電話 077-586-1100 FAX 0748-58-0220
HP : <https://www.kiboupark-shiga.or.jp>